

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

岡 大 病 総 第 114 号
令和 6 年 10 月 1 日
開設者名 国立大学法人岡山大学長 那須保友

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
氏名	国立大学法人岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号
電話(086)223-7151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については、内科で提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については、外科で提供している。また、消化器外科で提供される医療については、消化管外科及び肝・胆・膵外科で提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有				
歯科と組み合わせた診療科名								
○	1小児歯科		○	2矯正歯科		○	3歯科口腔外科	
歯科の診療体制								

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	消化管外科	3	肝・胆・膵外科	4	形成外科	5	小児神経科
6	病理診断科	7	リハビリテーション科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34	2			817	853

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	338	444	639.4	看護補助者	44	診療エックス線技師	0
歯科医師	85	167	161.6	理学療法士	24	臨床検査技師	71
薬剤師	74	0	74	作業療法士	9	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	6	その他	0
助産師	34	1	34.7	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	994	27	1010.4	臨床工学士	25	医療社会事業従事者	9
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	52
歯科衛生士	16	0	16	歯科技工士	7	事務職員	426
管理栄養士	7	1	7.6	診療放射線技師	55	その他の職員	48

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	85人	眼科専門医	9人
外科専門医	32人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	12人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	38人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	35人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	9人
		合計	309人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (前田 嘉信) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療事故防止委員会委員 平成29年7月1日～令和元年5月31日

医療安全管理委員会委員長 令和3年4月1日～現在

医療安全管理委員会医員 令和元年6月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	538.2 人	14.8 人	553.1 人
1日当たり平均外来患者数	1637.0 人	489.1 人	2126.1 人
1日当たり平均調剤数	1026.7		剤
必要医師数	149.1		人

必要歯科医師数	27	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	348	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,411.2 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	66 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 291.1 m ² [移動式の場合] 台数 - 台		病床数	29 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 -					
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動化学発光免疫測定装置、生化学自動分析装置 外		
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置、全自動細菌同定感受性検査装置、孵卵器 外		
病理検査室	448 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、クリオスタット 他		
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、遺体保存用冷蔵庫 外		
研究室	4,842 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、冷蔵庫、冷凍庫、中央実験台 外		
講義室	969 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室	収容定員	694 人	
図書室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	蔵書数	209,964 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	102.2 %	逆紹介率	177.4 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,983 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	40,460 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,334 人	
	D: 初診の患者の数	22,813 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会(会長)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所(弁護士)		法律に関する識見を有するため	無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学(名誉教授)		医療を受ける者の代表者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
先進医療の種類の合計数	
取り扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
テモゾロミド用量強化療法	0
生体肝移植術 適応症 切除が不可能な肝門部胆管がん	0
生体肝移植術 適応症 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	0
先進医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名	患者申出療養 マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 本治療は、遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常を有することが判明した患者の申出に基づき、当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	40

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	77
2 筋萎縮性側索硬化症	34	57	特発性拡張型心筋症	100
3 脊髄性筋萎縮症	13	58	肥大型心筋症	25
4 原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5 進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	19
6 パーキンソン病	211	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7 大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8 ハンチントン病	7	63	特発性血小板減少性紫斑病	15
9 神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10 シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	13
11 重症筋無力症	87	66	IgA 腎症	69
12 先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	46
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	56	68	黄色靱帯骨化症	10
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	22	69	後縦靱帯骨化症	52
15 封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	3
16 クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	40
17 多系統萎縮症	23	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	79	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19 ラインゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	17
20 副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	12
21 ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22 もやもや病	20	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	44
23 プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	133
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
25 進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26 HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	7
27 特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	69	83	アジソン病	1
29 ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	97
30 遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	65
31 ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	64
32 自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	9
34 神経線維腫症	45	89	リンパ脈管筋腫症	23
35 天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	11
36 表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37 膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	2
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	63
39 中毒性表皮壊死症	0	94	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	
40 高安動脈炎	27	95	原発性硬化性胆管炎	12
41 巨細胞性動脈炎	17	96	自己免疫性肝炎	35
42 結節性多発動脈炎	9	97	クローン病	237
43 顕微鏡的多発血管炎	35	98	潰瘍性大腸炎	420
44 多発血管炎性肉芽腫症	27	99	好酸球性消化管疾患	3
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	28	100	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
46 悪性関節リウマチ	9	101	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
47 バージャー病	2	102	腸管神経節細胞減少症	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	223	104	GFC症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	99	105	コステロ症候群	0
51 全身性強皮症	76	106	チャージ症候群	0
52 混合性結合組織病	28	107	クリオピリン関連周期熱症候群	1
53 シェーグレン症候群	22	108	若年性特発性関節炎	6
54 成人スチル病	10	109	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
55 再発性多発軟骨炎	5	110	TNF受容体関連周期性症候群	0
			非典型溶血性尿毒症症候群	0
			ブラウ症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	2	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167 マルフアン症候群	1
113 筋ジストロフィー	16	168 エーラス・ダンロス症候群	2
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	169 メンケス病	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	170 オクシビタル・ホーン症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	4
117	脊髄空洞症	8	172	低ホスファターゼ症	1
118	脊髄髄膜瘤	2	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	1
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	3
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	3
135	アイカルディ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	1	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	2	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	2	195	ヌーナン症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	3	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	6	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	3
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	2
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	21
156	レット症候群	1	211	左心低形成症候群	3
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	5
158	結節性硬化症	14	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	6
159	色素性乾皮症	2	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	13
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	12
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10	217	エプスタイン病	8
163	特発性後天性全身性無汗症	3	218	アルポート症候群	3
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	1	220	急速進行性糸球体腎炎	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	42	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
224	紫斑病性腎炎	7	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	2
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	4
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	2
227	オスラー病	9	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

228	閉塞性細気管支炎	1	283	後天性赤芽球癆	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	0	285	ファンconi貧血	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	2	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	9	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	6
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	1
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
244	メーブルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	7
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	115
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ボルフィリン症	0	309	進行性ミオクロームステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	1	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイトミクロン血症	1	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳髄黄色腫症	1	318	シトリン欠損症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	2	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	14	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	5	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	8
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

336	家族性低 β リポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
337	ホモシスチン尿症	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	163
合計患者数(人)	3565

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・感染対策向上加算1
・医療DX推進体制整備加算	・患者サポート体制充実加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・重症患者初期支援充実加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料	・術後疼痛管理チーム加算
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・バイオ後続品使用体制加算
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算	・データ提出加算
・看護職員夜間配置加算	・入退院支援加算
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・救命救急入院料4
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・特定集中治療室管理料1
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料3
・精神科身体合併症管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・短期滞在手術等基本料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料イ	・こころの連携指導料(Ⅰ)
・がん患者指導管理料ロ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・精神科退院時共同指導料1及び2
・糖尿病透析予防指導管理料	・歯科治療時医療管理料
・小児運動器疾患指導管理料	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・救急患者連携搬送料
・腎代替療法指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・一般不妊治療管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・下肢創傷処置管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・外来放射線照射診療料	・遺伝学的検査の注2に規定する施設基準
・外来腫瘍化学療法診療料1	・染色体検査の注2に規定する基準
・連携充実加算	・骨髄微小残存病変量測定
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・BRCA1／2遺伝子検査
・ニコチン依存症管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・先天性代謝異常症検査
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
・H P V核酸検出及びH P V核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・精密触覚機能検査
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・睡眠時歯科筋電図検査
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・画像診断管理加算1
・国際標準検査管理加算	・画像診断管理加算4
・遺伝カウンセリング加算	・歯科画像診断管理加算1
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・歯科画像診断管理加算2
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・遠隔画像診断
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・CT撮影及びMRI撮影
・胎児心エコー法	・冠動脈CT撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外傷全身CT加算
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・心臓MRI撮影加算
・脳波検査判断料1	・乳房MRI撮影加算
・神経学的検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・補聴器適合検査	・頭部MRI撮影加算
・ロービジョン検査判断料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・コンタクトレンズ検査料1	・外来化学療法加算1
・小児食物アレルギー負荷検査	・無菌製剤処理料
・内服・点滴誘発試験	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・経頸静脈的肝生検	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・経気管支凍結生検法	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・がん患者リハビリテーション料
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・リンパ浮腫複合的治療料
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科作業療法	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・硬膜外自家血注入	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・人工腎臓	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンス療法	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・ストーマ合併症加算	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・手術用顕微鏡加算	・羊膜移植術
・口腔粘膜処置	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))
・光学印象	・網膜再建術
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・歯科技工加算1及び2	・人工中耳植込術
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・皮膚移植術(死体)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・自家脂肪注入	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・緊急穿頭血腫除去術	・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳がんセンチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・乳がんセンチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・気管支バルブ留置術	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・同種死体肺移植術	・補助人工心臓
・生体部分肺移植術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・内視鏡下筋層切開術	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・内視鏡の逆流防止粘膜切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下胃縮小術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・尿道狭窄グラフト再建術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・体外衝撃波胆石破碎術	・精巣温存手術
・腹腔鏡下肝切除術	・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・生体部分肝移植術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・同種死体肝移植術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膵中央切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・同種死体小腸移植術	・体外式膜型人工肺管理料
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・尿道形成手術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・陰茎形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・陰茎全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・造陰術、陰閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・同種死体腎移植術	・子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・生体腎移植術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(性同一性障害患者に対して行う場合に限る。)
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・画像誘導密封小線源治療加算
・輸血管理料Ⅰ	・保険医療機関間の連携による病理診断
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・コーディネート体制充実加算	・デジタル病理画像による病理診断
・自己生体組織接着剤作成術	・病理診断管理加算2
・同種クリオプレシピテート作製術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・口腔病理診断管理加算2
・歯周組織再生誘導手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・手術時歯根面レーザー応用加算	・歯科矯正診断料
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・歯根端切除手術の注3	・看護職員処遇改善評価料78
・口腔粘膜血管腫凝固術	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・レーザー機器加算	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・麻酔管理料(Ⅰ)	・入院ベースアップ評価料95
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・周術期薬剤管理加算	・
・歯科麻酔管理料	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・一回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	117回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	9例
	剖検率(%)	5.8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵癌における反復配列RNAの機能解析と治療選択最適化への応用	大塚 基之	消化器内科	1,350,000	補	日本学術振興会
代謝チェックポイントを中心とした腸管組織免疫寛容性の解明と治療開発	藤原 英晃	血液・腫瘍内科	6,110,000	補	日本学術振興会
神経操作と生体イメージングによる白血病-神経-循環連関の解明	浅田 騰	血液・腫瘍内科	5,200,000	補	日本学術振興会
persister癌細胞と腫瘍微小環境の双方を標的とした革新的腫瘍免疫療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	5,200,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病における糖鎖異常と進展機構	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	5,720,000	補	日本学術振興会
最先端ゲノム解析技術を用いた神経筋変性疾患の病態解明・治療法開発研究	石浦 浩之	脳神経内科	4,670,000	補	日本学術振興会
前感作免疫による次世代型ウイルス製剤の腫瘍溶解性の強化に関する免疫分子機構の研究	藤原 俊義	消化管外科	5,850,000	補	日本学術振興会
マトリセルラータンパク質阻害によるがん微小環境の破壊と抗腫瘍効果の検討	豊岡 伸一	呼吸器外科	5,070,000	補	日本学術振興会
難治性肺がんの発生と進行を寛容する微小環境の同定と新規治療法開発	枝園 和彦	呼吸器外科	5,800,000	補	日本学術振興会
肉腫における体液分子診断技術の統合的開発と循環分子の新規治療標的としての検証	尾崎 敏文	整形外科	3,380,000	補	日本学術振興会
ロボットを用いた画像ガイド下骨穿刺の実現:自動穿刺アルゴリズムの構築	平木 隆夫	放射線科	2,860,000	補	日本学術振興会
細胞外小胞の口腔トロピズムを基軸とする侵襲性歯周炎の病態解明と診断への応用展開	山本 直史	歯科(総合歯科部門)	4,940,000	補	日本学術振興会
歯周感染・炎症が導く口腔-子宮連関による新規不妊メカニズムの解明	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	4,830,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析・iPS干渉法を応用した歯の再生技術の開発	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	8,970,000	補	日本学術振興会
Mφオートファジー異常から見た歯周病やインプラント周囲炎の新規治療戦略	秋山 謙太郎	歯科(口腔インプラント科部門)	4,550,000	補	日本学術振興会
癌骨破壊病変において新規破骨細胞形成促進因子Angiogeninが果たす役割の解明	伊原木 聡一郎	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	6,230,000	補	日本学術振興会
顎顔面領域先天性疾患の骨リモデリングを規定するエピゲノム制御機構の統合的理解	井澤 俊	矯正歯科	4,030,000	補	日本学術振興会
生体ボリュームイメージ解析による初期骨組織構築の解明—細胞・骨基質の両面から—	上岡 寛	矯正歯科	5,230,000	補	日本学術振興会

口腔バイオフィルム感染症制御法確立のための新規ターゲットタンパクの解析	仲野 道代	小児歯科	6,260,000	補	日本学術振興会
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	渡部 昌実	新医療研究開発センター	9,360,000	補	日本学術振興会
難治性血管炎の単一細胞解析による不均一性の解明とRNA誘導型組織修復法の開発	王 英正	新医療研究開発センター	5,850,000	補	日本学術振興会
シングルセル・マルチオミクス解析がもたらすリンパ腫時空間的不均一性の解明	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	7,020,000	補	日本学術振興会
空間マルチオミクス解析による腫瘍浸潤B細胞TLSの機能解明と腫瘍免疫療法への展開	富田 秀太	ゲノム医療総合推進センター	4,640,000	補	日本学術振興会
BMPとリズム調節因子による生殖内分泌調節メカニズムの探索と応用	大塚 文男	総合内科・総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
医学における「ビジュアルアート教育」に関する調査研究	小比賀 美香子	総合内科・総合診療科	1,170,000	補	日本学術振興会
総合診療における高IgG4血症の臨床的および血清学的特徴の解析	長谷川 功	総合内科・総合診療科	520,000	補	日本学術振興会
膵腺房導管異形成が誘発する膵癌遠隔転移のメカニズム解明	赤穂 宗一郎	総合内科・総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
内分泌視点から捉えたCOVID-19罹患後の倦怠感の機序とその解明	大塚 勇輝	総合内科・総合診療科	1,430,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎患者における直腸リンパ球の表面発現に基づいた治療効果予測法の確立	岩室 雅也	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
膵オルガノイドモデル構築による高精度膵癌診断と治療法の開発	堤 康一郎	消化器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
CD4T細胞の代謝制御を標的にした炎症性腸疾患新規治療薬の開発	高原 政宏	消化器内科	520,000	補	日本学術振興会
リキッドバイオプシーとマルチモダリティ人工知能を用いた次世代内視鏡診療体系の確立	衣笠 秀明	消化器内科	1,820,000	補	日本学術振興会
免疫学的便潜血検査自宅測定による潰瘍性大腸炎患者のセルフマネジメントの構築	平岡 佐規子	消化器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
REIC遺伝子がもたらす新たな消化管癌免疫療法	小橋 真由	消化器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
神経ペプチドNPYによる同種造血幹細胞移植後の非感染性呼吸器合併症治療の開発	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,300,000	補	日本学術振興会
ITK選択的阻害による制御性T細胞増幅を通じた新しい免疫寛容導入法の開発	近藤 匠	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアによる末梢CD4 CD8 double negative T細胞機能制御機構の解明	清家 圭介	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
肺慢性GVHDにおける局所炎症環境の包括的理解に基づく層別化医療の開発	松岡 賢市	血液・腫瘍・呼吸器内科学	1,690,000	補	日本学術振興会

SHP2による薬剤toleranceを標的とした肺がん根治的治療の開発	市原 英基	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補	日本学術振興会
ALK融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの早期耐性機序の解明と根治戦略の開発	横本 剛	呼吸器・アレルギー内科	1,430,000	補	日本学術振興会
Oct4陽性肺癌幹細胞マウスモデルの樹立と癌幹細胞を根絶する革新的治療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,950,000	補	日本学術振興会
ケモカイン抑制能を強化した新規間葉系幹細胞による慢性閉塞性肺疾患の細胞療法開発	宮原 信明	呼吸器・アレルギー内科	910,000	補	日本学術振興会
特発性肺線維症肺における空間的2型肺胞上皮シングルセルRNA-seq解析	肥後 寿夫	血液・腫瘍・呼吸器内科学	1,820,000	補	日本学術振興会
IgA腎症における尿中糖鎖異常と病態の解明	大西 康博	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補	日本学術振興会
細胞内蛋白の代謝異常に着目した骨粗鬆症発症機序の解明と新規治療ターゲットの開発	松本 佳則	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
マイクロRNA解析による特発性ネフローゼ症候群の病態解明と新規治療薬の開発	辻 憲二	腎臓・糖尿病・内分泌内科	910,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病患者CD8陽性T細胞の細胞老化と機能低下に対する機序の検討	野島 一郎	腎臓・糖尿病・内分泌内科	650,000	補	日本学術振興会
Txn1遺伝子ミスセンス変異による腎障害発症・進展機構の解明	竹内 英実	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補	日本学術振興会
Vaspinによるミトコンドリア機能維持を介した抗老化と腎臓における意義	中司 敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
Budding Uninhibited by Benzimidazoles 1の腎臓病進展に与える分子機構の解明	内田 治仁	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690,000	補	日本学術振興会
樹状細胞におけるTankyraseがSLEの病態に果たす役割についての研究	勝山 隆行	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,340,000	補	日本学術振興会
デジタル心電データを用いた不整脈ストーム化の予測と心臓突然死予防	森田 宏	循環器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
大動脈解離におけるメカノバイオロジー機構の解明	三好 亨	循環器内科	780,000	補	日本学術振興会
心血管メカノセンサーTRPV2の低酸素誘発性肺高血圧症への関与解明と治療法開発	中村 一文	循環器内科	780,000	補	日本学術振興会
心筋炎におけるIL-6の治療標的としての可能性の検討	網岡 尚史	循環器内科	715,000	補	日本学術振興会
二次心臓領域前駆細胞移植による心臓再生	斎藤 幸弘	循環器内科	2,210,000	補	日本学術振興会
インペラ補助下の吸入一酸化窒素に関するランダム化クロスオーバー多施設共同試験	岩崎 慶一郎	循環器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
ダイレクトリプログラミングによる脳梗塞モデルマウスの海馬神経細胞と認知機能の再生	福井 裕介	脳神経内科	1,690,000	補	日本学術振興会

パーシャル・リプログラミングによるALSマウス治療	平 佑貴	脳神経内科	1,430,000	補	日本学術振興会
in vivo ダイレクトリプログラミング法を用いた新規認知症治療法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	2,080,000	補	日本学術振興会
ALSとFTLDにおいてFUS相分離異常を来す因子の解明	森原 隆太	脳神経内科	1,690,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるRNA編集に基づく発症機序解明と発癌予測バイオマーカーの探求	近藤 喜太	消化管外科	1,820,000	補	日本学術振興会
FAP陽性がん関連線維芽細胞の遺伝子プロファイリングと個別化治療に向けた探索的研究	賀島 肇	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
p53搭載腫瘍融解ウイルスの治療関連バイオマーカー探索と効果予測システムの構築	門脇 大輔	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
治療用幹細胞を用いた抗癌アデノウイルス免疫療法の新規デリバリーシステムの開発	金谷 信彦	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
リンチ症候群におけるRNA編集を用いた1.5次予防の確立とプレシジョン医療の創造	高橋 利明	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
癌細胞から免疫細胞への機能抑制性RNA編集シグナルを遮断する癌免疫再生療法の開発	重安 邦俊	消化管外科	1,170,000	補	日本学術振興会
術前ウイルス療法による長期抗腫瘍免疫賦活を介した術後免疫療法効果増強の検討	橋本 将志	消化管外科	1,820,000	補	日本学術振興会
CAFsとPD1/PD-L1系との関連に対する探索的研究	田邊 俊介	肝・胆・膵外科	1,690,000	補	日本学術振興会
予後不良18F-FDG-PET高値膵癌を標的としたホウ素中性子捕捉療法	金平 典之	肝・胆・膵外科	1,690,000	補	日本学術振興会
膵臓がんに対するMHC誘導剤と樹状細胞を併用した複合免疫療法の開発	山田 元彦	肝・胆・膵外科	1,300,000	補	日本学術振興会
肺移植後早期グラフト機能不全に対する体内肺還流法による新規治療の開発	三好 健太郎	呼吸器外科	130,000	補	日本学術振興会
肺がんの胸膜播種進展に関与するがん微小環境の病態解明	諏澤 憲	呼吸器外科	1,170,000	補	日本学術振興会
内在性レトロウイルスが抗腫瘍免疫応答に関与するメカニズムの解明	豊岡 伸一	呼吸器外科	1,430,000	補	日本学術振興会
メタゲノム解析によるCOPD合併肺がんの臓器横断的ディスバイオーシスの解明	枝園 和彦	呼吸器外科	3,510,000	補	日本学術振興会
ジャポニカアレイを応用した慢性移植肺機能不全に関連する一塩基多型の探索	富岡 泰章	呼吸器外科	1,690,000	補	日本学術振興会
心停止ドナーからの肺移植後虚血再灌流障害のトランスレーショナルリサーチと治療応用	岡崎 幹生	呼吸器外科	3,510,000	補	日本学術振興会
乳癌治療経験者を対象とし医療介入に対する経済毒性とQOLを検証する前向き観察研究	岩谷 胤生	乳腺・内分泌外科	1,430,000	補	日本学術振興会

耐性化機序に基づいたHER2陽性乳癌に対する治療戦略の開発	枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	780,000	補	日本学術振興会
gBRCA変異陽性トリプルネガティブ乳がんにおける腫瘍微小環境解析	高橋 侑子	乳腺・内分泌外科	2,340,000	補	日本学術振興会
スタチンのMMP阻害による好中球浸潤を介した腎保護の証明	吉永 香澄	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
腎虚血再灌流障害の新規治療法の研究	荒木 元朗	泌尿器科	910,000	補	日本学術振興会
乳酸菌バイオサーファクタントを用いた反復性/難治性膀胱炎の予防的治療の新戦略	岩田 健宏	泌尿器科	650,000	補	日本学術振興会
制限増殖型アデノウイルスを用いた超低侵襲内視鏡治療の開発	枝村 康平	泌尿器科	1,040,000	補	日本学術振興会
腫瘍局所代謝改変タンパク質を用いたエフェクター細胞疲弊解除機構の解明	定平 卓也	泌尿器科	1,040,000	補	日本学術振興会
ウェアラブルデバイスと体組成計を用いた、女性骨盤臓器脱患者のフレイル合併頻度調査	小林 知子	泌尿器科	1,690,000	補	日本学術振興会
マラソン心事故予防に向けたAI解析による致死性不整脈の予知アルゴリズム構築	笠原 真悟	心臓血管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
心虚血・再灌流時のセロトニン動態への薬理学的介入による心筋細胞傷害軽減	黒子 洋介	心臓血管外科	1,170,000	補	日本学術振興会
ファロー四徴症における右室流出路狭窄の病態発生機序の解明と予後予測マーカーの開発	小林(芝谷) 純子	心臓血管外科	2,860,000	補	日本学術振興会
チアノーゼ性先天性心疾患における腸内細菌叢変化と心血管イベント発症の関連性の検討	井上 善紀	心臓血管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
22q11.2欠失症候群との網羅的な比較検討によるファロー四徴症での遺伝子異常の解明	鈴木 浩之	心臓血管外科	1,040,000	補	日本学術振興会
人工知能による物体検出を用いた原発性悪性骨腫瘍X線読影システムの開発と臨床応用	長谷井 嬢	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
イモキミド乾癬モデルにおける腱・靱帯付着部炎の病態評価とメカニカルストレスの関係	齋藤 太一	整形外科	1,040,000	補	日本学術振興会
骨肉腫肺転移に対する新規分子標的治療の開発	中田 英二	整形外科	1,040,000	補	日本学術振興会
肉腫における腫瘍関連マクロファージを標的軸とした新しい免疫療法の確立	藤原 智洋	整形外科	1,300,000	補	日本学術振興会
悪性骨軟部腫瘍における腫瘍微小環境を標的とした複合免疫療法の確立	吉田 晶	整形外科	910,000	補	日本学術振興会
メカニカルストレス応答調整を介した効率的な腱細胞誘導法の確立	中道 亮	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
肉腫における腫瘍内免疫環境の細胞間ネットワーク機構解明を基盤とした治療法の開発	尾崎 敏文	整形外科	2,340,000	補	日本学術振興会

AIによる骨腫瘍X線画像読影システムの開発と臨床研究	尾崎 敏文	整形外科	7,299,500	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経線維腫症1型患者のNF1遺伝子変異に基づく病態解明と個別化医療を目的とした疾患特異的iPS細胞の樹立	中田 英二	整形外科	16,900,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊椎脊髄腫瘍に対する腫瘍融解ウイルス療法の確立	魚谷 弘二	整形外科	2,210,000	補	日本学術振興会
メカニカルストレス応答調整による新たな腱修復法の開発	中道 亮	整形外科	1,690,000	補	日本学術振興会
がん遺伝子パネル検査の全国登録データを利用した悪性骨軟部腫瘍の網羅的遺伝子解析	國定 俊之	整形外科	1,690,000	補	日本学術振興会
脂質代謝による翻訳制御を標的とした横紋筋肉腫の革新的治療法の開発	板野 拓人	整形外科	2,080,000	補	日本学術振興会
内在性カテコラミン合成経路を標的とした悪性末梢神経鞘腫瘍の新規治療方法の確立	片山 晴喜	整形外科	2,600,000	補	日本学術振興会
有限要素法を用いた骨盤輪骨折に対する包括的な固定法評価	小田 孔明	整形外科	2,080,000	補	日本学術振興会
頭蓋形態に対する一般化容易な定量的解析法の確立と日本人小児における標準値の作成	妹尾 貴矢	形成外科	650,000	補	日本学術振興会
emulsification(乳化)技術を用いた解剖体用尿管造影剤の開発	松本 洋	形成外科	1,300,000	補	日本学術振興会
形成外科領域の患者QOL向上のために、新規PRO尺度導入とその臨床応用	雑賀 美帆	形成外科	910,000	補	日本学術振興会
短期作動型in vivo遺伝子治療法を目指した、皮膚潰瘍部の遺伝子発現プロファイリング	加藤 基	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
スキャフォールドフリー培養軟骨を用いたヒト由来細胞外マトリックス製剤の開発	太田 智之	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
モデルマウスを用いたネザートン症候群の病態解明	森実 真	皮膚科	1,820,000	補	日本学術振興会
網膜色素上皮細胞におけるカリウムチャネルKir7.1の機能解明	森實 祐基	眼科	1,170,000	補	日本学術振興会
網膜前増殖組織の牽引力の差異を生む分子生物学的背景の解明	的場 亮	眼科	1,430,000	補	日本学術振興会
難治性網膜疾患の遺伝子治療を目的としたボルナウイルスベクターの開発	塩出 雄亮	眼科	1,820,000	補	日本学術振興会
HPV関連中咽頭癌の集団ベーススクリーニング法の開発	安藤 瑞生	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会
内耳有毛細胞・支持細胞の免疫応答メカニズム-急性感音難聴の遺伝子医療にむけて-	前田 幸英	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会
嗅細胞障害による異嗅症の分子学的治療戦略	村井 綾	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補	日本学術振興会

頭頸部がんに対するがん免疫療法における治療抵抗性因子の探索	牧野 琢丸	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢のマルチオミクス解析による統合失調症の病態解明	岡久 祐子	精神科神経科	260,000	補	日本学術振興会
神経自己抗体が精神疾患の発症、再発に与える影響	高木 学	精神科神経科	1,300,000	補	日本学術振興会
てんかんと認知症疾患の統合的研究	竹之下 慎太郎	精神科神経科	650,000	補	日本学術振興会
術後せん妄のサブタイプに着目した病態機序解明と新規バイオマーカーの確立	酒本 真次	精神科神経科	1,040,000	補	日本学術振興会
行政データを利活用して精神障害者のがん検診受診格差を地域単位で明らかにする研究	藤原 雅樹	精神科神経科	1,820,000	補	日本学術振興会
慢性外傷性脳症モデル確立と経動脈的幹細胞移植:タウ蛋白と遺伝子発現の変化に迫る	安原 隆雄	脳神経外科	1,690,000	補	日本学術振興会
パーキンソン病の非運動症状に対する迷走神経刺激療法の可能性を探索	佐々木 達也	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
神経膠腫のpassenger deletionに伴う構造的脆弱性を標的とした治療	大谷 理浩	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
うつ病モデルラットに対する脳・脊髄電気刺激療法	佐々田 晋	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
小児脳幹神経膠腫に対する血液脳関門の障壁を克服する治療法の開発	石田 穰治	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
DLCコーティングを用いた新規脳血管内治療用カテーテルの開発	平松 匡文	脳神経外科	780,000	補	日本学術振興会
抗HMGB1抗体で高齢者クモ膜下出血後の脳血管攣縮治療の未来を拓く	春間 純	脳神経外科	1,690,000	補	日本学術振興会
一細胞時空間解析を用いた膠芽腫微小環境の再構築機序の解明と新規免疫療法の開発	大谷 理浩	脳神経外科	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診断困難な小児脳腫瘍に対するマルチオミクス解析を駆使したprecision medicineの確立	石田 穰治	脳神経外科	300,000	補	公益財団法人岡山県健康づくり財団
腫瘍微小環境空間発現解析による低悪性度てんかん原性小児脳腫瘍診断の確立と治療標的の探索	石田 穰治	脳神経外科	700,000	補	公益財団法人両備裡園記念財団
空間トランスクリプトーム解析による小児脳腫瘍の悪性化予測マーカーの確立	大谷 理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
腫瘍内因性PD-L1シグナルを標的とした膠芽腫に対する新規治療開発	大谷 理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人興和生命科学振興財団
性差による中枢神経系免疫の違いが脳腫瘍免疫療法に与える影響の解明	大谷 理浩	脳神経外科	2,500,000	補	公益財団法人神澤医学研究振興財団
クロマチンリモデリングによる疲弊型T細胞の克服	大谷 理浩	脳神経外科	2,000,000	補	公益財団法人上原記念生命科学財団

腫瘍微小環境の再構築による、膠芽腫に対する新規免疫療法の開発	大谷 理浩	脳神経外科	1,500,000	補	公益財団法人 中外創薬科学 財団
腸脳相関による腫瘍微小環境の制御と、膠芽腫に対する免疫療法の効果改善	大谷 理浩	脳神経外科	2,200,000	補	公益財団法人 野口研究所
医療系学生における脳血管内治療シミュレーション教育の有用性	胡谷 侑貴	脳神経外科	300,000	補	公益財団法人 川崎医学・医 療福祉学振興 会
小児を対象にした新型コロナウイルス感染症の病態解明と後遺症抑止を目指した研究	塚原 宏一	小児科	1,040,000	補	日本学術振 興会
IL-1受容体・トール様受容体シグナルを制御するインフルエンザ脳症の新規治療探索	津下 充	小児科	1,170,000	補	日本学術振 興会
マイクロRNA発現調節による川崎病の抗炎症治療戦略	平井 健太	小児科	1,560,000	補	日本学術振 興会
ヒエラルキーダイナミクスによる小児急性骨髄性白血病の正確な予後予測	石田 悠志	小児科	2,730,000	補	日本学術振 興会
ビタミンB6依存性てんかんの早期診断体制構築に向けたバイオマーカーの測定と探索	秋山 倫之	小児神経科	1,170,000	補	日本学術振 興会
脳波のネットワーク解析による小児てんかん性脳症の病態の解明	柴田 敬	小児神経科	910,000	補	日本学術振 興会
代謝てんかんの迅速診断に向けた代謝パネル検査の構築	秋山 倫之	小児神経科	1,600,000	補	公益財団法人 てんかん治療 研究振興財団
子宮体癌におけるRNA編集解明と新規治療戦略の探索	中村 圭一郎	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振 興会
子宮平滑筋肉腫の新規革新的治療戦略の構築	松岡 敬典	産科婦人科	780,000	補	日本学術振 興会
リキッドバイオプシーを用いた革命的な卵巣がん診断・治療法の開発	依田 尚之	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振 興会
胎盤のプロレニン受容体を標的とした妊娠高血圧腎症の新たな治療戦略と病態の解明	光井 崇	産科婦人科	1,820,000	補	日本学術振 興会
高齢女性の女性ホルモン投与下での筋負荷運動がもたらす下肢筋力の相乗効果	牧 尉太	産科婦人科	1,300,000	補	日本学術振 興会
子宮頸癌サバイバーのための放射線照射に起因する脆弱性骨盤骨折予防プログラムの開発	長尾 昌二	産科婦人科	910,000	補	日本学術振 興会
子宮内低栄養環境の次世代への影響—代謝エピゲノム解析とバイオマーカーの開発	増山 寿	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振 興会
RNA編集における子宮内膜症の新規診断・治療の探索	樫野 千明	産科婦人科	2,080,000	補	日本学術振 興会
糖尿病妊婦の母児合併症を抑制するためのテラーメイド栄養管理の開発	衛藤 英理子	産科婦人科	780,000	補	日本学術振 興会
肺癌に対するマイクロ波焼灼術の安全性と有効性の検討—単施設単群前向きオープン試験	富田 晃司	放射線科	1,690,000	補	日本学術振 興会

既承認器具の課題を克服した子宮頸がん組織内照射テンプレートの新規開発	吉尾 浩太郎	放射線科	2,600,000	補	日本学術振興会
新規光ファイバ焼灼医療機器の開発～経皮的針生検の合併症低減を目指して～	馬越 紀行	放射線科	2,340,000	補	日本学術振興会
臓器の呼吸性移動を可視化する複合現実の開発：画像下低侵襲がん治療への実装に向けて	松井 裕輔	放射線科	3,120,000	補	日本学術振興会
心停止後症候群に対する33℃と35℃の目標温度管理の神経学的予後に関する比較	内藤 宏道	救命救急科	780,000	補	日本学術振興会
水素吸入によるクラッシュ症候群に対する革新的治療の開発	湯本 哲也	救命救急科	338,000	補	日本学術振興会
マウスを用いた水素吸入療法による肺挫傷の新規治療法の開発	塚原 紘平	救命救急科	1,820,000	補	日本学術振興会
ドクターヘリの費用対効果に関する研究	久村 正樹	救命救急科	910,000	補	日本学術振興会
アセトアミノフェン肝障害モデルに対するCORM経口投与による障害抑制効果の検討	小原 隆史	救命救急科	1,690,000	補	日本学術振興会
低酸素シグナルを軸とした心停止後臓器提供・温阻血臓器障害に対する水素の効果と機序	小崎 吉訓	救命救急科	2,470,000	補	日本学術振興会
ICUにおける人工呼吸器管理後の嚥下障害を改善するためのケアバンドル作成	本郷 貴識	救命救急科	650,000	補	日本学術振興会
ビリベルジン添加臓器保存液はラット心停止心臓グラフト虚血再灌流障害を軽減するか？	野島 剛	救命救急科	2,340,000	補	日本学術振興会
”希少”および”遺伝性”に着目した希少遺伝性疾患診断後の患者・家族支援方法の確立研究課題	岡崎 哲也	臨床遺伝子診療科	1,430,000	補	日本学術振興会
歯科診療行為のVR動画閲覧は、臨床教育の現場における共感教育の手法を変革できるか	白井 肇	歯科(総合歯科部門)	2,340,000	補	日本学術振興会
口腔バイオフィルムの成熟における細胞外DNAの構造変化の役割の解析と治療への応用	味野 範子	歯科(総合歯科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
放射線性う蝕から歯を守る～頭頸部がんサバイバーのQOL向上のための基礎研究～	松崎 久美子	歯科(保存歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
細菌の酵素反応を基盤とした根面う蝕管理法の開発	大原 直子	歯科(保存歯科部門)	2,210,000	補	日本学術振興会
プロトンポンプ阻害剤服用時に歯周病原細菌が腸内細菌叢へ及ぼす影響	平井 公人	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
制御性T細胞の変化が関わるシェーグレン症候群特異的な新規非翻訳RNAの探索と解析	池田 淳史	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
真菌二次代謝産物Terreinが骨ホメオスタシスに及ぼす影響の免疫学的解析	坂井田 京佑	歯科(歯周科部門)	2,340,000	補	日本学術振興会
炎症収束脂質メディエーターのレゾルビンD2の硬組織誘導能のメカニズムの検討	岡本 憲太郎	歯科(歯周科部門)	2,600,000	補	日本学術振興会

HMGB1が破骨細胞の分化制御を介して歯周炎の進行に及ぼす免疫学的影響の解明	平井 杏奈	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
カーボンナノシートを応用した口腔バイオフィルム形成抑制剤の効果持続性向上への挑戦	大久保 圭祐	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
永久歯の感染性歯髄炎への抗炎症物質RvD2応用によるVital Pulp Therapy有効性の検討	伊東 有希	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
低栄養状態が歯周炎進行に及ぼす影響の検討	平井 杏奈	歯科(歯周科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
がん化学療法に伴う口腔粘膜炎発症患者に対する新規口腔粘膜保護法の有効性および安全性を検討する臨床試験の実施	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	16,896,100	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
変形性関節症におけるエピジェネティクスを介したWISP1遺伝子発現制御機構の解明	前田 あずさ	歯科(口腔インプラント科部門)	910,000	補	日本学術振興会
IoTセンサーを利用した高齢者の口腔関連日常生活動作の測定と要介護後期介入転換	藤原 彩	歯科(口腔インプラント科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析を応用した歯肉角化制御メカニズムの解明	縄稚 久美子	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
コンタクトオステオジェネシスの概念に基づく口腔インプラント体表面改質材の開発	田仲 由希恵	歯科(口腔インプラント科部門)	2,600,000	補	日本学術振興会
炎症性シグナルによるMSCの免疫疲弊メカニズム解明と組織破壊抑制療法の開発	田頭 龍二	歯科(口腔インプラント科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
フレイル発症における腸内細菌叢の役割解明と積極的腸管保護療法の開発	大森 江	歯科(口腔インプラント科部門)	1,950,000	補	日本学術振興会
MSC/2型Mφ1細胞間連携による炎症・再生関連促進の分子メカニズム解明	秋山 謙太郎	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
新規センシング技術と機械学習による歯への機械的負荷を定量化する評価システムの構築	水口 一	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
MR画像による長期予後調査より関節円板後部結合組織の偽円板化と予後との関連を探索	三木 春奈	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析を応用したオッセオインテグレーションの解明	石橋 啓	歯科(口腔インプラント科部門)	3,380,000	補	日本学術振興会
歯根膜刺激が減少すると海馬錐体細胞が減少するメカニズムの解明 青斑を介した伝導路	原 哲也	歯科(補綴歯科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
多官能アクリレート結合型長鎖シランカップリング剤の創出と応用	丸尾 幸憲	歯科(補綴歯科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
AIによる画像解析技術を応用した新規咀嚼能力評価システムの構築	杉本 皓	歯科(補綴歯科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
舌筋の加齢変化を客観的に評価する表面筋電図手法の創製	萬田 陽介	歯科(補綴歯科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
顎関節軟骨の老化を制御する新規メカニズムの解明	桑原 実穂	歯科(補綴歯科部門)	2,470,000	補	日本学術振興会

口腔機能向上が身体的・精神的フレイルに及ぼす有効性の検証:ランダム化比較試験	竹内 倫子	歯科(予防歯科部門)	910,000	補	日本学術振興会
摂食嚥下療方は頭頸部がんサバイバーの復職支援となりうるか？	横井 彩	歯科(予防歯科部門)	910,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢・遺伝子多型・細胞外小胞の違いが歯周病の進行におよぼす影響	澤田 ななみ	歯科(予防歯科部門)	390,000	補	日本学術振興会
食道がん化学療法による口腔粘膜炎症重症化に対する新規予測ストラテジーの確立	内田 悠理香	歯科(予防歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
Trp/LNAA比上昇による睡眠時ブラキシズム改善効果の検証	外山 直樹	歯科(予防歯科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
放射線性う蝕予防の新規アプローチ～歯面塗布型放射線防護剤の開発～	松崎 秀信	歯科(歯科放射線科部門)	1,950,000	補	日本学術振興会
味覚酸・CO2センサーの口腔外機能:延髄呼吸中枢での役割	難波 友里	歯科(歯科放射線科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
骨髄由来間葉系幹細胞を用いた新規骨折治癒促進治療の開発	久富 美紀	歯科(歯科放射線科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性チャネルサブタイプを介した抗炎症作用機序の解明	宮脇 卓也	歯科(歯科麻酔科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体を介した炎症性神経障害性疼痛の制御機構の解明	藤本 磨希	歯科(歯科麻酔科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
臨床応用可能なプロポフォール封入リポソーム製剤開発のための生物学的利用能の検討	西岡 由紀子	歯科(歯科麻酔科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
鏡像構造を有する頭蓋底軟骨の新規分子の探索と顎発育との関連	天野 克比古	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
神経ペプチドCGRPは口腔癌の骨破壊を制御する新たな標的となり得るか？	吉岡 徳枝	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,040,000	補	日本学術振興会
脂質代謝を標的とした新規免疫抑制解除型治療の基盤研究	國定 勇希	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	1,282,060	補	日本学術振興会
人工知能を用いた口腔癌頸部リンパ節転移の診断システムの開発	小畑 協一	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	520,000	補	日本学術振興会
長鎖非コードRNAによる骨細胞メカニカルストレス応答制御機構の解明	石川 崇典	矯正歯科	780,000	補	日本学術振興会
口蓋突起の癒合におけるFilamin Aを介した上皮間葉転換の分子機序の解明	早野 暁	矯正歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
口腔機能低下症に迷走神経刺激は有効か:脳腸連関によるニューロモジュレーション解析	植田 紘貴	矯正歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
後天的な顎骨形態決定の鍵となる遺伝子の同定とそれに基づく不正咬合抑制への新戦略	河野 加奈	矯正歯科	650,000	補	日本学術振興会
喫煙によるダイオキシン受容体を介した口腔組織修復の破綻メカニズム解明への挑戦	井澤 俊	矯正歯科	2,080,000	補	日本学術振興会

空間情報に紐づけられた遺伝子発現解析から探る口蓋裂発生機序の解明への挑戦	上岡 寛	矯正歯科	910,000	補	日本学術振興会
超大規模三次元形態計測による矯正力感知時の歯周組織細胞変化の解明	中條 真奈	矯正歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
進行性下顎頭吸収を制御する核内受容体AhRシグナルによる骨免疫ネットワークの解明	吉川 友理	矯正歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
Development of biodevices for mechanical stimulation of cells in living bone and comprehensive analysis of their mechanotransduction mechanism	上岡 寛	矯正歯科	7,930,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢の網羅的解析による口腔粘膜障害への臨床アプローチ	平野 慶子	小児歯科	1,040,000	補	日本学術振興会
ABCトランスポーターを基軸としたS. mutansのシグナル伝達システムの解明	後藤 花奈	小児歯科	2,080,000	補	日本学術振興会
口腔細菌叢のメタゲノム解析による非アルコール性脂肪肝炎発症機序解明と新規予防戦略	仲野 道代	小児歯科	1,950,000	補	日本学術振興会
S. mutans コラーゲン結合タンパクに着目した IgA 腎症発症機構の解明	仲 周平	小児歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
S. mutans 膜トランスポーターに着目した薬剤耐性獲得メカニズムの解明	浅海 春華	小児歯科	390,000	補	日本学術振興会
急性移植片対宿主病の重篤化抑制を目的としたテブレノン併用免疫抑制療法の開発	藤井 敬子	検査部	910,000	補	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害モデルにおける筋膜の役割-新たな治療ターゲットの開発	松岡 義和	集中治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
中心静脈圧の呼吸性変動は呼吸負荷の指標と成り得るか	岡原 修司	集中治療部	1,300,000	補	日本学術振興会
Force-Length Relationによる単離ヒト心筋細胞の機能評価	小松 弘明	循環器疾患集中治療部	1,300,000	補	日本学術振興会
同種造血細胞移植後閉塞性細気管支炎におけるマクロファージ標的治療の開発	藤井 伸治	輸血部	2,470,000	補	日本学術振興会
慢性腎臓病に対するVasohibin-2ペプチドワクチン療法の有効性の検討	田邊 克幸	血液浄化療法部	1,300,000	補	日本学術振興会
菌性感染由来の発熱性好中球減少症リスク判断指標の解明ー乳がん補助化学療法を対象に	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
歯周治療による大腸がん重症化予防の試み〜F. nucleatum血流感染リスク低減を介して〜	山中 玲子	医療支援歯科治療部	1,950,000	補	日本学術振興会
消化器癌転移形成過程への好中球細胞外トラップの関与とその制御法の開発	香川 俊輔	腫瘍センター	1,300,000	補	日本学術振興会
RNA結合タンパクZFP36の中樞性性腺ホルモン分泌制御について	寺坂 友博	内分泌センター	1,690,000	補	日本学術振興会
抗炎症タンパク質HRGに着目した肺虚血再灌流障害に対する新規治療法の開発	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	1,300,000	補	日本学術振興会

ロボット支援下肝胆膵高難度手術におけるトレーニングプログラムの開発	高木 弘誠	臓器移植医療センター	1,820,000	補	日本学術振興会
Uncontrolled心停止ドナー肺の活用を可能とする新肺評価法の開発	田中 真	臓器移植医療センター	2,340,000	補	日本学術振興会
大腸癌肝転移における肝外遠隔転移の予測とPrecision medicine への応用	藤 智和	臓器移植医療センター	1,820,000	補	日本学術振興会
ナノポアシーケンサーを用いた移植肺障害の革新的な迅速診断法の開発と病態解明	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	5,720,000	補	日本学術振興会
経胸壁心エコー図で奇異性脳塞栓症に関連する卵円孔開存を診断する研究	高谷 陽一	超音波診断センター	1,560,000	補	日本学術振興会
治療抵抗性前立腺癌における癌化-ステロイドシグナルaxisの機構解明	小林 泰之	低侵襲治療センター	1,300,000	補	日本学術振興会
膵がん微小環境を標的としたホウ素中性子捕捉療法の開発	寺石 文則	低侵襲治療センター	1,300,000	補	日本学術振興会
腫瘍融解アデノウイルスのエクソソームを介した全身性免疫賦活効果の検討	垣内 慶彦	低侵襲治療センター	2,730,000	補	日本学術振興会
HMGB1-HRGバランスに着目した川崎病新規治療薬の開発	馬場 健児	IVRセンター	1,690,000	補	日本学術振興会
グリオーマにおける免疫微小環境関連germlineバリエーションの解析	杉生 憲志	IVRセンター	910,000	補	日本学術振興会
性別違和を有する者の生きづらさの可視化:アンケート調査による治療評価法の確立	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	650,000	補	日本学術振興会
喉頭挙上訓練を容易にするシステムの開発	山本 昌直	スペシャルニーズ歯科センター	1,300,000	補	日本学術振興会
メタボローム解析が切り開くダウン症患者の歯周病の病態解明	江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	2,080,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢の改善による反復性膀胱炎の新たな予防法と治療法の開発	石井 亜矢乃	総合患者支援センター	1,040,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢に着目した同種造血幹細胞移植後移植片対宿主病の病態解明と治療応用	山本 晃	院内がん登録室	1,040,000	補	日本学術振興会
先進医療Bの薬事承認申請活用に関する品質確保のための研究	櫻井 淳	新医療研究開発センター	1,170,000	補	日本学術振興会
膵臓癌に対する癌特異的p53遺伝子治療を阻害する代謝因子の探索と個別化治療の開発	田澤 大	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
COVID-19診療現場の看護師が抱える心理的負担の要因	坂本 陽子	新医療研究開発センター	520,000	補	日本学術振興会
臨床試験/治験に参加する患者の就労支援のありかたに関する研究	難波 志穂子	新医療研究開発センター	780,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病におけるIL-18によるインフラマソーム活性化機構の解明と治療応用	宮本 聡	新医療研究開発センター	1,170,000	補	日本学術振興会

摂食時の動画から嚥下機能を評価する革新的摂食嚥下障害AI診断システムの確立	大野 彩	新医療研究開発センター	1,820,000	補	日本学術振興会
超音波内視鏡診断支援プログラムの社会実装に向けた基盤整備	内田 大輔	新医療研究開発センター	1,560,000	補	日本学術振興会
膵がんメチオームマーカーとしてのNNMT代謝物の有効性	千々松 良太	ゲノム医療総合推進センター	1,430,000	補	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球に基づくがん免疫療法(抗CTLA-4抗体)のバイオマーカー開発	二宮 貴一郎	ゲノム医療総合推進センター	1,950,000	補	日本学術振興会
4Dシングルセル・マルチオミクス解析による悪性リンパ腫の免疫療法耐性機序の解明	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	2,600,000	補	日本学術振興会
ハイブリッド遺伝子変異がもたらすリンパ腫時空間的不均一性を克服する新たな治療法開発	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん免疫療法関連心筋炎の解析に適した実験的発症モデルの開発	濱野 裕章	薬剤部	2,730,000	補	日本学術振興会
がん免疫療法誘発大腸炎モデルマウスを活用した乳酸菌製剤による治療効果の評価	藏田 靖子	薬剤部	1,430,000	補	日本学術振興会
オミクスデータと疾患モデルの統合解析で紐解くがん免疫療法による肺腸連関炎症機構	田中 雄太	薬剤部	1,430,000	補	日本学術振興会
データサイエンスを起点とした抗がん剤誘発末梢神経障害の予防法開発	座間味 義人	薬剤部	3,000,000	補	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
医療情報を活用した免疫療法誘発心筋炎予測デバイスの日米共同開発	濱野 裕章	薬剤部	3,000,000	補	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
大規模リアルワールドデータ解析による免疫療法誘発心筋炎の日米共同研究	濱野 裕章	薬剤部	700,000	補	公益財団法人両備櫻園記念財団

計270件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Fukushima S, Hagiya H, Iio K, et al.	総合内科・総合診 療科	Case Series of Granulicatella Bacteremia: A Single-centered, Five- year Retrospective Study	Acta Med Okayama. 2023 Apr;77(2):203-207.	Case report
2	Otsuka Y, Hagiya H, Fukushima S, et al.	総合内科・総合診 療科	Trends in the Incidence of Japanese Spotted Fever in Japan: A Nationwide, Two-Decade Observational Study from 2001-2020	Am J Trop Med Hyg. 2023 Apr; 108(4): 701- 704.	Original Article
3	Fukushima S, Hagiya H, Naito H, et al.	総合内科・総合診 療科	Furious lung abscess due to Parvimonas micra	Respirol Case Rep. 2023 May 16;11(6):e01161.	Case report
4	Fukushima S, Hagiya H, Uda K, et al.	総合内科・総合診 療科	Current Prevalence of Antimicrobial Resistance in Okayama from a National Database between 2018 and 2021	Acta Med Okayama. 2023 Jun;77(3):255-262.	Original Article
5	Hagiya H, Uno M, Higashionna T, et al.	総合内科・総合診 療科	Antimicrobials in the Hospital Are Unevenly Discontinued on Weekdays	Intern Med. 2023 Jun 15;62(12):1739-1742.	Original Article
6	Yamamoto K, Hasegawa K, Yasuhara T, et al.	総合内科・総合診 療科	Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Caused by X- linked Hypophosphatemia	JMA J. 2023 Jul 14;6(3):346-347.	Case report
7	Sunada N, Otsuka Y, Honda H, et al.	総合内科・総合診 療科	Phase-dependent trends of male hypogonadism in long COVID patients	Endocr J. 2023 Jul 28;70(7):755-756.	Original Article
8	Yamamoto K, Nakano Y, Iwata N, et al.	総合内科・総合診 療科	Stimulatory effects of vasopressin on progesterone production and BMP signaling by ovarian granulosa cells	Biochem Biophys Res Commun. 2023 Jul 30;667:132-137.	Original Article
9	Otsuka Y, Hasegawa K, Yamamoto Y, et al.	総合内科・総合診 療科	Collaboration between generalist and ENT physicians in COVID-19 Omicron variant-induced laryngitis	Auris Nasus Larynx. 2023 Aug;50(4):652-653.	Letter
10	Oguni K, Fukushima S, Yamamoto Y, et al.	総合内科・総合診 療科	Preoperative detection of functional somatostatin receptors in a patient with an insulinoma	Clin Case Rep. 2023 Aug 2;11(8):e7771.	Case report
11	Soejima Y, Iwata N, Nishioka R, et al.	総合内科・総合診 療科	Interaction of Orexin and Bone Morphogenetic Proteins in Steroidogenesis by Human Adrenocortical Cells	Int J Mol Sci. 2023 Aug 8;24(16):12559.	Original Article

12	Fukushima S, Hagiya H, Yamamoto Y, et al.	総合内科・総合診療科	Cryptococcal Meningitis Developing in a Patient with Neurosarcoidosis	Intern Med. 2023 Aug 15;62(16):2433–2435.	Case report
13	Hagiya H, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Increased evidence for no benefit of contact precautions in preventing extended-spectrum (β)-lactamases-producing Enterobacteriaceae: Systematic scoping review	Am J Infect Control. 2023 Sep;51(9):1056–1062.	Review
14	Takase R, Hagiya H, Fujimori T, et al.	総合内科・総合診療科	Super acute-onset disseminated BCG infection: A case report	J Infect Chemother. 2023 Sep;29(9):919–921.	Case report
15	Otsuka Y, Hagiya H, Sunada N, et al.	総合内科・総合診療科	Task shifting of medical office works: A preliminary questionnaire survey for generalists	J Gen Fam Med. 2023 Jul 25;24(5):317–319.	Others
16	Hagiya H, Koyama T, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Epidemiological Characteristics and Trends in the Incidence of Leptospirosis in Japan: A Nationwide, Observational Study from 2006 to 2021	Am J Trop Med Hyg. 2023 Jul 24;109(3):589–594.	Original Article
17	Hagiya H, Nishimura Y, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Safety and usefulness of nebulized liposomal amphotericin B: Systematic scoping review	Pulm Pharmacol Ther. 2023 Oct;82:102233.	Review
18	Tokumasu K, Fujita-Yamashita M, Sunada N, et al.	総合内科・総合診療科	Characteristics of Persistent Symptoms Manifested after SARS-CoV-2 Vaccination: An Observational Retrospective Study in a Specialized Clinic for Vaccination-Related Adverse Events	Vaccines (Basel). 2023 Oct 30;11(11):1661.	Original Article
19	Fukushima S, Hagiya H, Honda H, et al.	総合内科・総合診療科	A case of typhoid fever presenting with non-G6PD associated Hemolytic anaemia	J Travel Med. 2023 Oct 31;30(6):taad092.	Case report
20	Yamamoto K, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Hypertension is the only clue for the discovery of adrenal rhabdomyosarcoma	Hypertens Res. 2023 Nov;46(11):2551–2552.	Case report
21	Soejima Y, Yamamoto K, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療科	Functional interaction of Clock genes and bone morphogenetic proteins in the adrenal cortex	Vitam Horm. 2024 Feb 124:429–447.	Others
22	Soejima Y, Iwata N, Yamamoto K, et al.	総合内科・総合診療科	Mutual Effects of Orexin and Bone Morphogenetic Proteins on Catecholamine Regulation Using Adrenomedullary Cells	Int J Mol Sci. 2024 Jan 27;25(3):1585.	Original Article
23	Yamamoto K, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	A Mediastinum Tumor Presenting With Dysphagia	JCEM Case Rep. 2024 Jan 31;2(2):luae011.	Case report
24	Oka K, Tokumasu K, Hagiya H, et al.	総合内科・総合診療科	Characteristics of Functional Hyperthermia Detected in an Outpatient Clinic for Fever of Unknown Origin	J Clin Med. 2024 Feb 3;13(3):889.	Original Article

25	Yamamoto K, Honda H, Hasegawa K, et al.	総合内科・総合診療科	Penile cavernosal abscess after urethral injury	Clin Case Rep. 2024 Feb 19;12(2):e8534.	Case report
26	Hagiya H, Tokumasu K, Otsuka Y, et al.	総合内科・総合診療科	Relevance of complement immunity with brain fog in patients with long COVID	J Infect Chemother. 2024 Mar;30(3):236–241.	Original Article
27	Nakano Y, Sunada N, Tokumasu K, et al.	総合内科・総合診療科	Occult endocrine disorders newly diagnosed in patients with post-COVID-19 symptoms	Sci Rep. 2024 Mar 5;14(1):5446.	Case report
28	Oguni K, Yamamoto K, Nakano Y, et al.	総合内科・総合診療科	Trends of correlations between serum levels of growth hormone and insulin-like growth factor-I in general practice	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 Mar 26;15:1381083.	Original Article
29	Yamamoto K, Nakagawa K, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Idiopathic ventricular tachycardia detected after coronavirus disease 2019	J Gen Fam Med. 2024 Mar 25;25(3):164–165.	Case report
30	Sato R, Matsumoto K, Kinugasa H, et al.	消化器内科	Usefulness of the artificial intelligence-mediated virtual chromoendoscopy in peroral cholangioscopy.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S 01):E971–E972.	Case report
31	Iwamuro M, Kondo T, Ennishi D, et al.	消化器内科	Feasibility of Flow Cytometry Analysis of Gastrointestinal Tract-Residing Lymphocytes in Hematopoietic Stem Cell Transplant Recipients.	Acta Med Okayama. 2023 Aug;77(4):347–357.	Original Article
32	Kono Y, Higashi R, Mizushima H, et al.	消化器内科	Usefulness of Acetic Acid Spray with Narrow-Band Imaging for Identifying the Margin of Sessile Serrated Lesions.	Dig Dis Sci. 2023 Jun;68(6):2553–2560.	Original Article
33	Maeda Y.	血液・腫瘍内科	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2023: I. Leukemia-1. Acute myeloid leukemia (AML)	Int J Hematol. 2024 Mar, 119:343–347.	Review
34	Kobayashi H, Ouchi T, Kitamura W, et al.	血液・腫瘍内科	Sutimlimab suppresses SARS-CoV-2 mRNA vaccine-induced hemolytic crisis in a patient with cold agglutinin disease	J Clin Exp Hematop. 2023 Dec, 63:246–250	Case report
35	Kitamura W, Kobayashi H, Iseki A, et al.	血液・腫瘍内科	Cold agglutinin-induced acrocyanosis without hemolytic anemia	Ann Hematol. 2024 Feb, 103: 681–683.	Case report
36	Kondo T, Fujii K, Fujii N, et al.	血液・腫瘍内科	Efficient granulocyte collection method using high concentrations of medium molecular weight hydroxyethyl starch	Transfusion.2023 Jul, 63:1344–53	Original Article
37	Asada N, Ando J, Takada S, et al.	血液・腫瘍内科	Venetoclax plus low-dose cytarabine in patients with newly diagnosed acute myeloid leukemia ineligible for intensive chemotherapy: an expanded access study in Japan	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jun, 53:595–603.	Original Article

38	Asada N, Katayama Y.	血液・腫瘍内科	A mysterious triangle of blood, bones, and nerves	J Bone Miner Metab. 2023 May, 41:404-414.	Review
39	Hara N, Ichihara E, Kano H, et al.	呼吸器・アレルギー 内科	CDK4/6 signaling attenuates the effect of epidermal growth factor receptor (EGFR) tyrosine kinase inhibitors in EGFR-mutant non-small cell lung cancer	Transl Lung Cancer Res. 2023 Oct 31;12(10):2098- 2112.	Original Article
40	Ichihara E, Hasegawa K, Kudo K, et al.	呼吸器・アレルギー 内科	A randomized controlled trial of teprenone in terms of preventing worsening of COVID-19 infection	PLoS One. 2023 Oct 26;18(10):e0287501. (オン ライン)	Original Article
41	Motokura Y, Ito A, Ishida T.	呼吸器・アレルギー 内科	Severe Legionella Pneumonia in Which Serial Testing by Ribotest® Legionella was Useful for the Diagnosis	Intern Med. 2023 Oct 15;62(20):2989-2993.	Case report
42	Higo H, Ichikawa H, Arakawa Y, et al.	呼吸器・アレルギー 内科	Switching to Dupilumab from Other Biologics without a Treatment Interval in Patients with Severe Asthma: A Multi- Center Retrospective Study.	J Clin Med. 2023 Aug 9;12(16):5174.	Original Article
43	Miyamoto M, Nakamura K, Nakagawa K, et al.	循環器内科	Prevalence and Treatment of Arrhythmias in Patients With Transthyretin and Light-Chain Cardiac Amyloidosis.	Circ Rep. 2023 Jun 23;5(7):298-305.	Original Article
44	Nishihara T, Miyoshi T, Nakashima M, et al.	循環器内科	Association of perivascular fat attenuation on computed tomography and heart failure with preserved ejection fraction.	ESC Heart Fail. 2023 Aug;10(4):2447-2457.	Original Article
45	Akagi S, Nakamura K, Kondo M, et al.	循環器内科	Evidence for Hypoxia-Induced Shift in ATP Production from Glycolysis to Mitochondrial Respiration in Pulmonary Artery Smooth Muscle Cells in Pulmonary Arterial Hypertension.	J Clin Med. 2023 Jul 31;12(15):5028.	Original Article
46	Nakamura K, Morita H, Takaya Y, et al.	循環器内科	Effects of Agalsidase Alfa Enzyme Replacement Therapy on Left Ventricular Hypertrophy on Electrocardiogram in a Female Patient with Fabry Disease.	Int Heart J. 2023 May 31;64(3):502-505.	Original Article
47	Nakayama R, Takaya Y, Akagi T, et al.	循環器内科	Patent foramen ovale with sail-like Eustachian valve causing recurrent strokes.	Cardiovasc Interv Ther. 2023 Apr;38(2):264-265.	Original Article
48	Miki T, Nakagawa K, Ichikawa K, et al.	循環器内科	Diagnostic Performance of Cardiac Computed Tomography for Detecting Patent Foramen Ovale: Evaluation Using Transesophageal Echocardiography and Catheterization as Reference Standards.	J Cardiovasc Dev Dis. 2023 Apr 26;10(5):193.	Original Article
49	Iwasaki K, Nishii N, Akagi S,	循環器内科	A successful bridge to recovery with Impella 5.0 and subsequent hybrid cardiac resynchronization therapy in systemic right ventricle failure: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2023 Apr 30;7(5):ytad214.	Case report
50	Asada S, Nakagawa K, Nishii N, et al.	循環器内科	A variability of the QRS morphology during wide QRS tachycardia.	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Dec;46(12):1568-1571.	Original Article

51	Toh N, Akagi T, Nakamura K, et al.	循環器内科	Utility of angiopoietin-2 measured early after the Fontan operation.	Am J Cardiol. 2023 Oct 15;205:516.	Original Article
52	Morita H, Nagase S.	循環器内科	The Mechanism of Brugada Syndrome: Is it Induced Only by Conduction Disturbance?	JACC Clin Electrophysiol. 2023 Nov;9(11):2356.	Original Article
53	Yamashita T, Nakano Y, Sasaki R, et al.	脳神経内科	Safety and Clinical Effects of a Muse Cell-Based Product in Patients With Amyotrophic Lateral Sclerosis: Results of a Phase 2 Clinical Trial	cell transplant. 2023 Nov (オンライン)	Original Article
54	Kimura J, Sui K, Tabuchi M, et al.	肝胆膵外科	Preoperative percent body fat in bioelectrical impedance analysis predicts pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	Langenbecks Arch Surg. 2023 Jun 28;408(1):248.	Original Article
55	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Innovative suture technique for robotic hepaticojejunostomy: double-layer interrupted sutures	Langenbecks Arch Surg. 2023 Jul 20;408(1):284.	Original Article
56	Kakiuchi Y, Kuroda S, Choda Y, et al.	低侵襲治療センター	Prognostic nutritional index is a prognostic factor for patients with gastric cancer and esophagogastric junction cancer undergoing proximal gastrectomy with esophagogastronomy by the double-flap technique: A	Surg Oncol. 2023 Oct;50:101990.	Original Article
57	Kawasaki K, Noma K, Kato T, Ohara T, et al.	消化管外科	PD-L1-expressing cancer-associated fibroblasts induce tumor immunosuppression and contribute to poor clinical outcome in esophageal cancer in esophageal cancer	Cancer Immunol Immunother. 2023 Nov;72(11):3787–3802.	Original Article
58	Kanaya N, Kitamura Y, Lopez Vazquez M, et al.	消化管外科	Gene-edited and -engineered stem cell platform drives immunotherapy for brain metastatic melanomas	Sci Transl Med. 2023 May 31;15(698):eade8732.	Original Article
59	Teraishi F, Shigeyasu K, Kondo Y, et al.	低侵襲治療センター	Clinical Impact of Prehabilitation on Elective Laparoscopic Surgery in Frail Octogenarians With Colorectal Cancer	Anticancer Res. 2023 Dec;43(12):5597–5604.	Original Article
60	Kikuchi S, Matsusaki T, Mitsuhashi T, et al.	消化管外科	Epidural versus patient-controlled intravenous analgesia on pain relief and recovery after laparoscopic gastrectomy for gastric cancer: randomized clinical trial	BJS Open. 2024 Jan 3;8(1):zrad161.	Original Article
61	Yasui K, Toshima T, Inada R, et al.	肝胆膵外科	Circulating cell-free DNA methylation patterns as non-invasive biomarkers to monitor colorectal cancer treatment efficacy without referencing primary site mutation profiles	Mol Cancer. 2024 Jan 3;23(1):1.	Original Article
62	Takagi K, Umeda Y, Fuji T, et al.	臓器移植医療センター	Role of robotic surgery as an element of Enhanced Recovery After Surgery protocol in patients undergoing pancreatoduodenectomy	J Gastrointest Surg. 2024 Mar;28(3):220–225.	Original Article
63	Kuroda S, Ishida M, Choda Y, et al.	消化管外科	A multi-center, prospective, clinical study to evaluate the anti-reflux efficacy of laparoscopic double-flap technique (ID-FLAP Study)	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Feb 22;8(3):374–382.	Original Article

64	Kakiuchi Y, Kuroda S, Kanaya N, et al.	低侵襲治療センター	Exosomes as a drug delivery tool for cancer therapy: a new era for existing drugs and oncolytic viruses	Expert Opin Ther Targets. 2023 Jul-Dec;27(9):807–816.	Review
65	Takagi K, Fuji T, Yasui K, et al.	臓器移植医療センター	ASO Author Reflections: The Role of Robotic Surgery in Patients with Portal Annular Pancreas	Ann Surg Oncol. 2024 Mar;31(3):1943.	Review
66	Kondo Y, Fujiwara T	消化管外科	Laparoscopic Surgical Options as a Minimally Invasive Procedure for a Patient With Recurrent Postoperative Pain in Anterior Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Case Report	Cureus. 2023 May 23;15(5):e39366.	Case report
67	Takagi K, Umeda Y, Fuji T, et al.	臓器移植医療センター	Robotic Pancreaticoduodenectomy Using the Right Posterior Superior Mesenteric Artery Approach	J Gastrointest Surg. 2023 Dec;27(12):3069–3070.	Case report
68	Kashima H, Kikuchi S, Kuroda S, et al.	卒後臨床研修センター	Laparoscopic and Endoscopic Cooperative Surgery for Gastric Submucosal Tumor Near Esophagogastric Junction With Sliding Hiatal Hernia	Cureus. 2023 Apr 20;15(4):e37902.	Case report
69	Hanzawa S, Teraishi F, Matsumi Y, et al.	消化管外科	Precision laparoscopic sentinel node navigation surgery for femoral skin cancer	Asian J Endosc Surg. 2023 Jul;16(3):523–527.	Case report
70	Takagi K, Fuji T, Yamada M, et al.	臓器移植医療センター (肝胆膵外科)	A case report of splenic injury related to colonoscopy: Fortunately treated with conservative treatment	DEN Open. 2023 Sep 1;4(1):e287.	Case report
71	Takagi K, Fuji T, Yamada M, et al.	臓器移植医療センター (肝胆膵外科)	Robotic Pancreatoduodenectomy in Portal Annular Pancreas Using a Hanging Maneuver with Indocyanine Green Fluorescence Imaging	Ann Surg Oncol. 2024 Mar;31(3):1933–1936.	Case report
72	Tomioka Y, Sugimoto S, Yamamoto H, et al.	呼吸器外科	Identification of genetic loci associated with renal dysfunction after lung transplantation using an ethnic-specific single-nucleotide polymorphism array	Sci Rep. 2023 Jun 1;13(1):8912.	Original Article
73	Iwatani T, Saito S.	乳腺内分泌外科	Surgical site infections in thyroid and parathyroid surgery in Japan: An analysis of the Japan Nosocomial Infections Surveillance database from 2013 to 2020	Int Wound J. 2023 Aug;20(6):1874–1881.	Original Article
74	Sugimoto S, Matsubara K, Tanaka S, et al.	臓器移植医療センター	Long-term management and outcome of lung transplantation in Japan	J Thorac Dis. 2023 Sep 28;15(9):5182–5194.	Original Article
75	Tomioka Y, Miyoshi K, Tanaka S, et al.	呼吸器外科	Successful management of temporary venovenous extracorporeal membrane oxygenation for a pediatric lung transplant recipient with bronchiolitis obliterans syndrome awaiting lung re-transplantation: a case report	Surg Case Rep. 2023 Sep 15;9(1):163.	Case report
76	Shien K, Fujiwara T, Toyooka S.	呼吸器外科	ASO Author Reflections: Prognostic Impact of the Primary Tumor Resection for Lung Cancer Patients Diagnosed with Pleural Dissemination in the Perioperative Period—Importance of Biomarker-Based Treatment Decision Making	Ann Surg Oncol. 2023 Oct;30(11):6703–6704.	Original Article

77	Tomioka Y, Tanaka S, Otani S, et al.	呼吸器外科	Elderly lung transplant recipients show acceptable long-term outcomes for lung transplantation: A propensity score-matched analysis	Surg Today. 2023 Nov;53(11):1286-1293.	Original Article
78	Tsukioki T, Khan SA, Shien T.	内分泌センター	Current status and challenges of breast cancer prevention~DNA methylation would lead to groundbreaking progress in breast cancer prevention~	Genes Environ. 2023 Dec 12;45(1):35.	Original Article
79	Tomioka Y, Otani S, Tanaka S, et al.	呼吸器外科	Successful Living-donor Lobar Lung Transplantation With BK Virus-related Hemorrhagic Cystitis Throughout the Perioperative Period	Transplant Direct. 2023 Dec 12;10(1):e1556.	Case report
80	Tomioka Y, Sugimoto S, Shiotani T, et al.	呼吸器外科	Long-term outcomes of lung transplantation requiring renal replacement therapy: A single-center experience	Respir Investig. 2024 Mar;62(2):240-246.	Original Article
81	Watanabe T, Ishino T, Ueda Y, et al.	泌尿器科	Activated CTLA-4-independent immunosuppression of Treg cells disturbs CTLA-4 blockade-mediated antitumor immunity	Cancer Sci. 2023 May;114(5):1859-1870.	Original Article
82	Sekito T, Wada K, Ishii A, et al.	泌尿器科	Etiology of recurrent cystitis in postmenopausal women based on vaginal microbiota and the role of Lactobacillus vaginal suppository	Front Microbiol. 2023 May 18;14:1187479.	Original Article
83	Kawada T, Yanagisawa T, Araki M, et al.	泌尿器科	Sequential intravesical gemcitabine and docetaxel therapy in patients with nonmuscle invasive bladder cancer: a systematic review and meta-analysis	Curr Opin Urol. 2023 May 1;33(3):211-218.	Original Article
84	Watanabe T, Sadahira T, Hirakawa H, et al.	泌尿器科	Exploration of the protein-dependent mechanism of Lactobacillus crispatus GAI98322 to prevent recurrent cystitis	J Infect Chemother. 2023 Oct;29(10):1001-1004.	Original Article
85	Kawada T, Yanagisawa T, Bekku K, et al.	泌尿器科	Low-dose or -number of BCG in non-muscle invasive bladder cancer: updated systematic review and meta-analysis	Immunotherapy. 2023 Aug;15(12):933-943.	Original Article
86	Nagasaki N, Watanabe T, Edamura K, et al.	泌尿器科	Bladder tumors with multiple cardiac metastases, with elevated serum granulocyte colony-stimulating factor	Am J Med. 2023 Aug;136(8):e161-e162.	Case report
87	Kawada T, Yanagisawa T, Bekku K, et al.	泌尿器科	The efficacy and safety outcomes of lower dose BCG compared to intravesical chemotherapy in non-muscle-invasive bladder cancer: A network meta-analysis	Urol Oncol. 2023 Jun;41(6):261-273.	Review
88	Bekku K, Nagasaki N, Tsuboi I, et al.	泌尿器科	Tolerability of immune checkpoint inhibitor doublet for advanced renal cell carcinoma patients with pre-dialysis chronic kidney disease or end-stage renal disease	Int J Urol. 2023 Oct;30(10):931-933.	Others
89	Kawada T, Shim SR, Quhal F, et al.	泌尿器科	Diagnostic accuracy of liquid biomarkers for clinically significant prostate cancer detection:A systematic review and diagnostic meta-analysis of multiple thresholds	Eur Urol Oncol. 2023 Nov 17:S2588-9311(23)00248-1.	Review

90	Bekku K, Kawada T, Sekito T, et al.	泌尿器科	The diagnosis and treatment approach for oligo-recurrent and oligo-progressive renal cell carcinoma	Cancers (Basel). 2023 Dec 17;15(24):5873.	Review
91	Bekku K, Kawada T, Yanagisawa T, et al.	泌尿器科	Role of lymphadenectomy during primary surgery for kidney cancer	Curr Opin Urol. 2023 Jul 1;33(4):294–301.	Review
92	Katayama H, Fujimura A, Huang R, et al.	整形外科	Role of catecholamine synthases in the maintenance of cancer stem-like cells in malignant peripheral nerve sheath tumors	Cancer Sci. 2024 Mar;115(3):871–882	Original Article
93	Fujiwara T, Kunisada T, Nakata E, et al.	整形外科	Factors associated with survival in patients with clear cell sarcoma	Bone Joint J. 2023 Nov 1;105–B(11):1216–1225	Original Article
94	Uotani K, Tazawa H, Hasei J, et al.	整形外科	Fluorescence-guided assessment of bone and soft-tissue sarcoma for predicting the efficacy of telomerase-specific oncolytic adenovirus	PLoS One. 2024 Feb 20;19(2):e0298292	Original Article
95	Nakata E, Fujiwara T, Kunisada T, et al.	整形外科	Results of resection of forearm soft tissue sarcoma	J Orthop Surg Res. 2023 Aug 14;18(1):599	Original Article
96	Fujiwara T, Kunisada T, Nakata E, et al.	整形外科	Advances in treatment of alveolar soft part sarcoma: an updated review	Jpn J Clin Oncol. 2023 Nov 5;53(11):1009–1018	Review
97	Saiga M, Nakagiri R, Mukai Y, et al.	形成外科	Trends and issues in clinical research on satisfaction and quality of life after mastectomy and breast reconstruction: a 5-year scoping review	Int J Clin Oncol. 2023 Jul;28(7):847–859.	Original Article
98	Ota T, Takao T, Iwai R, et al.	形成外科	Fabrication of shape-designable cartilage from human induced pluripotent stem cell-derived chondroprogenitors using a cell self-aggregation technique	Biomed Mater. 2023 Oct 24;18(6).	Original Article
99	Takezaki D, Morizane S, Ikeda K, et al.	皮膚科	Co-occurrence of non-alcoholic steatohepatitis exacerbates psoriasis associated with decreased adiponectin expression in a murine model.	Front Immunol. 2023 Aug; 14:1214623	Original Article
100	Morizane S, Mukai T, Sunagawa K, et al.	皮膚科	Input/output cytokines in epidermal keratinocytes and the involvement in inflammatory skin diseases.	Front Immunol. 2023 Oct; 14:1239598	Original Article
101	Hirai Y, Iwatsuki K, Takahashi T, et al.	皮膚科	Coexpression of natural killer cell antigens by T-cell large granular lymphocytes in hydroa vacciniforme lymphoproliferative disorder and the involvement of V δ 1 + epithelial-type γ δ T cells.	Int J Hematol. 2023 Jul; 118(1):54–64	Original Article
102	Hirai Y, Asada H, Hamada T, et al.	皮膚科	Diagnostic and disease severity determination criteria for hydroa vacciniforme lymphoproliferative disorders and severe mosquito bite allergy.	J Dermatol. 2023 Jul; 50(7):e198–e205	Original Article

103	Kajita A, Kawakami Y, Hiraoka S, et al.	皮膚科	Vulvar Crohn's disease presenting with multiple exophytic nodules and labial swelling: A case report.	J Dermatol. 2023 Dec; 50(12):e411–e412	Case report
104	Hasui K, Kawakami Y, Miyake T, et al.	皮膚科	Cutaneous toxicity with suprabasal blisters and dyskeratosis following administration of enfortumab vedotin.	J Dermatol. 2023 Apr; 22(10):16646	Case report
105	Matoba R, Morimoto N, Kawasaki R, et al.	眼科	A nationwide survey of newly certified visually impaired individuals in Japan for the fiscal year 2019: impact of the revision of criteria for visual impairment certification.	Jpn J Ophthalmol.2023 May;67:346–352	Original Article
106	Matoba R, Kanzaki Y, Kimura S, et al.	眼科	A factor for predicting simultaneous internal limiting membrane peeling during epiretinal membrane removal: swept-source optical coherence tomography-based evaluation of epiretinal membrane adhesion to the retina.	Jpn J Ophthalmol.2023 Jul;67:410–416	Original Article
107	Kimura S, Hosokawa MM, Shiode Y, et al.	眼科	Accuracy of ultrasound vs. Fourier-domain optic biometry for measuring preoperative axial length in cases of rhegmatogenous retinal detachment.	Jpn J Ophthalmol.2023 Nov;67:645–651	Original Article
108	Matoba R, Kanzaki Y, Morita T, et al.	眼科	Evaluation of epiretinal membrane formation after scleral buckling for treating rhegmatogenous retinal detachment: En face optical coherence tomography image-based study.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2024 Feb;262:469–476	Original Article
109	Matoba R, Kanzaki Y, Morita T, et al.	眼科	Microperimetry-guided inverted internal limiting membrane flap site selection to preserve retinal sensitivity in macular hole with glaucoma.	Am J Ophthalmol Case Rep.2024 Feb;33:102007	Case report
110	Maeda Y, Kojima K, Takao S, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Endolymphatic hydrops on magnetic resonance imaging may be an independent finding on aging in neurotologic patients.	Otol Neurotol 2023 Aug 1;44:737–741	Original Article
111	Sugaya A, Kariya S, Fukushima K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Revision cochlear implant surgery in adults and children is a safe and effective technique: a retrospective single faculty study in Okayama University Hospital, Japan.	Acta Otolaryngol 2023 Oct;143(10):835–839	Original Article
112	Makihara S, Uraguchi K, Naito T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Risk factors for anterior skull base injury in endoscopic sinus surgery.	Cureus 2023 Nov 23;15:e49273	Original Article
113	Maeda Y, Kojima K, Omichi R.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	15-year follow-up for steroid-responsive, fluctuating hearing loss in the ear with endolymphatic hydrops confirmed by magnetic resonance imaging.	Auris Nasus Larynx 2023 Dec;50:964–967.	Case report
114	Zhu X#, Sakamoto S#, Ishii C, et al. (# Contributed equally)	精神科神経科	Dectin-1 signaling on colonic γ δ T cells promotes psychosocial stress responses.	Nat Immunol. 2023 Apr;24(4):625–636.	Original Article
115	Takenoshita S, Terada S, Inoue T,et al.	精神科神経科	Prevalence and modifiable risk factors for dementia in persons with intellectual disabilities.	Alzheimers Res Ther. 2023 Jul;15(1):125.	Original Article

116	Fujiwara M, Yamada Y, Shimazu T, et al.	精神科神経科	Increasing disparities in cancer screening among people with severe mental illness during the COVID-19 pandemic.	Schizophrenia Research.2023 Aug;258:18-20	Letter
117	Otani Y, Satomi K, Suruga Y, et al.	脳神経外科	Utility of genome-wide DNA methylation profiling for pediatric-type diffuse gliomas	Brain Tumor Pathology. 2023 Apr; 40(2): 56-65	Original Article
118	Hiramatsu M, Sugiu K, Yasuhara T, et al.	脳神経外科	Angioarchitecture of the normal lateral spinal artery and craniocervical junction arteriovenous fistula using contrast-enhanced cone-beam CT	Clinical Neuroradiology. 2023 Jun; 33(2): 375-382	Original Article
119	Ebisudani Y, Sugiu K, Murai S, et al.	脳神経外科	Questionnaire survey of neurointerventional simulation training in the Japanese Society for Neuroendovascular Therapy	Journal of Neuroendovascular Therapy. 2023 Jul; 17(9): 181-187	Review
120	Kemmotsu N, Ninomiya K, Kunimasa K, et al.	脳神経外科	Low frequency of intracranial progression in advanced NSCLC patients treated with cancer immunotherapies	International Journal of Cancer. 2024 Jan; 154(1): 169-179	Original Article
121	Haruma J, Sugiu K, Ebisudani Y, et al.	脳神経外科	Endovascular treatment for intracranial artery dissections in posterior circulation	Journal of Neuroendovascular Therapy. 2024 Jan; 18(3): 92-102	Original Article
122	Hiramatsu M, Ozaki T, Tanoue S, et al.	脳神経外科	Detailed anatomy of bridging veins around the foramen magnum: a multicenter study using three-dimensional angiography	Clinical neuroradiology. 2024 Mar;34(1):67-74.	Original Article
123	Kegoya Y, Otani Y, Inoue Y, et al.	脳神経外科	Midline invasion predicts poor prognosis in diffuse hemispheric glioma, H3 G34-mutant: an individual participant data review	Journal of neuro-oncology. 2024 Mar; 167(1): 201-210.	Original Article
124	Shimizu T, Kanazawa T, Sakura T, et al.	周術期管理センター	Efficacy of prophylactic high-flow nasal cannula therapy for postoperative pulmonary complications after pediatric cardiac surgery: a prospective single-arm study.	J Anesth. 2023 Jun;37(3):433-441.	Original Article
125	Yoshida T, Sakura T, Shimizu K, et al.	麻酔科蘇生科	Carboxyhemoglobin and Methemoglobin Levels and Hemolysis in Children Undergoing Cardiac Surgery With Cardiopulmonary Bypass	ASAIO J. 2023 Dec 1;69(12):1099-1105	Original Article
126	Shigeyasu Y, Okada A, Fujii C, et al.	小児科	Quality of life and physical/psychosocial factors in children and adolescents with orthostatic intolerance.	Biopsychosoc Med. 2023 Jun 12;17(1):23.	Original Article
127	Ishida H, Imamura T, Tatebe Y, et al.	小児科	Impact of asparaginase discontinuation on outcomes of children with acute lymphoblastic leukaemia receiving the Japan Association of Childhood Leukaemia Study ALL-02 protocol.	Br J Haematol. 2023 Jun;201(6):1200-1208.	Original Article
128	Ishida H, Shimada H, Tanizawa A, et al.	小児科	Allogeneic stem cell transplantation for children and adolescents/young adults with de novo blastic phase chronic myeloid leukemia in the tyrosine kinase inhibitor era.	Am J Hematol. 2023 Aug;98(8):E200-E203.	Original Article

129	Tsuge M, Uda K, Eitoku T, et al.	小児科	Roles of Oxidative Injury and Nitric Oxide System Derangements in Kawasaki Disease Pathogenesis: A Systematic Review.	Int J Mol Sci. 2023 Oct 22;24(20):15450.	Review
130	Tsuge M, Shigehara K, Uda K, et al.	小児科	Successful use of dupilumab for egg-induced eosinophilic gastroenteritis with duodenal ulcer: a pediatric case report and review of literature.	Allergy Asthma Clin Immunol. 2023 Dec 5;19(1):103.	Case report
131	Ishida H, Tsujimoto SI, Hasegawa D, et al.	小児科	Optimizing transplantation procedures through identification of prognostic factors in second remission for children with acute myeloid leukemia with no prior history of transplant.	Haematologica. 2024 Jan 1;109(1):312-317.	Original Article
132	Ishida H, Arakawa Y, Hasegawa D, et al.	小児科	Reduced-intensity allogeneic transplantation for children and adolescents with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Ann Hematol. 2024 Mar;103(3):843-854.	Original Article
133	Akiyama M, Akiyama T, Saigusa D, et al.	小児神経科	Comprehensive study of metabolic changes induced by a ketogenic diet therapy using GC/MS- and LC/MS-based metabolomics	Seizure. 2023 Apr;107:52-9	Original Article
134	Tsuchiya H, Shibata T, Sasaki T, et al.	小児神経科	Effective epilepsy surgery for post-traumatic West syndrome following abusive head trauma	Acta Med Okayama. 2023 Oct;77(5):561-6	Case report
135	Shibata T, Kondo M, Fukushima Y, et al.	小児神経科	Epilepsy in children with congenital heart disease: risk factors and characteristic presentations	Pediatr Neurol. 2023 Oct;147:28-35	Original Article
136	Akiyama M, Akiyama T, Saito H, et al.	小児神経科	A female patient with adolescent-onset progressive myoclonus epilepsy carrying a truncating MECP2 mutation	Brain Dev. 2023 Nov;45(10):597-602	Case report
137	Mishima S, Mitsui T, Tani K, et al.	産科婦人科	Endothelin-1 production via placental (pro)renin receptor in a mouse model of preeclampsia	Placenta. 2023 Jul;138:44-50	Original Article
138	Kitayama T, Tanaka T, Kanie Y, et al.	放射線科	Regression of Necrotic Lesions after Methotrexate Withdrawal in Patients with Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorders: A Retrospective CT Study	Acta Med Okayama. 2024 Feb;78:29-36.	Original Article
139	Kojima K, Takahashi Y, Sugiyama S, et al.	放射線科	A Case of Migration of a Hydrogel Spacer for Radiotherapy into the Pulmonary Artery	Acta Med Okayama. 2023 Dec;77:647-650.	Case report
140	Matsui Y, Tomita K, Uka M, et al.	放射線科	Automated Feeder-Detection Software for Renal Cell Carcinoma Embolization: A Retrospective Evaluation of Detection Rate Using Transarterial Time-Resolved Computed Tomography Angiography	Cardiovasc Intervent Radiol. 2024 Jan;47:132-138.	Original Article
141	Iguchi T, Matsui Y, Toji T, et al.	放射線科	Prospective evaluation of core number of biopsy for renal tumor: are multiple cores preferable?	Jpn J Radiol. 2024 Mar;42:319-325.	Original Article

142	Okamoto S, Matsui Y, Sakae H, et al.	放射線科	A Case of Small Bowel Arteriovenous Malformation Diagnosed Using Multiphase CT Angiography and Digital Subtraction Angiography	Cureus. 2023 Jul 29;15:e42644.	Case report
143	Umakoshi N, Matsui Y, Tomita K, et al.	放射線科	Image-Guided Ablation Therapies for Extrahepatic Metastases from Hepatocellular Carcinoma: A Review	Cancers (Basel). 2023 Jul 18;15:3665.	Review
144	Matsui Y, Kamegawa T, Tomita K, et al.	放射線科	Robotic systems in interventional oncology: a narrative review of the current status	Int J Clin Oncol. 2024 Feb;29:81–88.	Review
145	Iguchi T, Matsui Y, Tomita K, et al.	放射線科	Complications of Percutaneous Cryoablation for Renal Tumors and Methods for Avoiding Them	Acta Med Okayama. 2023 Apr;77:121–129.	Review
146	Umakoshi N, Iguchi T, Matsui Y, et al.	放射線科	Renal cryoablation combined with prior transcatheter arterial embolization in non-dialysis patients with stage 4 or 5 chronic kidney disease: a retrospective study	Jpn J Radiol. 2023 Sep;41:1007–1014.	Original Article
147	Hongo T, Naito H, Keibun Liu, et al.	救命救急科	Changes in temporal muscle dimensions and their clinical impact in out-of-hospital cardiac arrest survivors.	Resusc Plus. 2023 Dec; 17:100527.	Original Article
148	Naito H, Hanafusa H, Hongo T, et al.	救命救急科	Effect of stomach inflation during cardiopulmonary resuscitation on return of spontaneous circulation in out-of-hospital cardiac arrest patients: A retrospective observational study.	Resuscitation. 2023 Dec;193:109994.	Original Article
149	Yumoto T, Kuribara T, Yamada K, et al.	救命救急科	Clinical parameter-guided initial resuscitation in adult patients with septic shock: A systematic review and network meta-analysis.	Acute Med Surg. 2023 Dec;10(1):e914.	Original Article
150	Tanabe R, Hongo T, Obara T, et al.	救命救急科	Treatment patterns and clinician stress related to care of out-of-hospital cardiac arrest patients with a do not attempt resuscitation order.	Resusc Plus. 2023 Nov; 16: 100507.	Original Article
151	Yumoto T, Hongo T, Koide Y, et al.	救命救急科	Radiation in an emergency situation: attempting to respect the patient's beliefs as reported by a minor.	BMC Med Ethics. 2023 Oct;24(1):80.	Case report
152	Ageta K, Hirayama T, Aokage T, et al.	救命救急科	Hydrogen inhalation attenuates lung contusion after blunt chest trauma in mice.	Surgery. 2023 Aug; 174(2):343–349.	Original Article
153	Hongo T, Yamamoto S, Nojima T, et al.	救命救急科	Automatic emergency calls from smartphone/smartwatch applications in trauma.	Acute Med Surg. 2023 Jul 22;10(1):e875.	Letter
154	Hongo T, Yumoto T, Naito H, et al.	救命救急科	Frequency, associated factors, and associated outcomes of dysphagia following sepsis.	Aust Crit Care. 2023 Jul;36(4):521–527	Original Article

155	Naito H, Sakuraya M, Hongo T, et al.	救命救急科	Prevalence, reasons, and timing of decisions to withhold/withdraw life-sustaining therapy for out-of-hospital cardiac arrest patients with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation.	Critical Care.2023 Jun;27(1):252.	Original Article
156	Obara T, Yumoto T, Nojima T, et al.	救命救急科	Association of Prehospital Physician Presence During Pediatric Out-of-Hospital Cardiac Arrest With Neurologic Outcomes.	Pediatr Crit Care Med. 2023 May;24(5):e244–e252.	Original Article
157	Yumoto T, Hongo T, Hifumi T, et al.	救命救急科	Association between prehospital advanced life support by emergency medical services personnel and neurological outcomes among adult out-of-hospital cardiac arrest patients treated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: A secondary analysis of the	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2023 Apr 11;4(2):e12948.	Original Article
158	Inaba M, Naito H, Yorifuji T, et al.	救命救急科	Impact of frailty on long-term mortality in older patients receiving intensive care via the emergency department.	Sci Rep. 2023 Apr;13(1):5433.	Original Article
159	Hongo T, Yumoto T, Inab M, et al.	救命救急科	Long-term, patient-centered, frailty-based outcomes of older critical illness survivors from the emergency department: a post hoc analysis of the LIFE Study.	BMC Geriatr. 2024 Mar;24(1):257.	Original Article
160	Hongo T, Yumoto T, Kosaki Y, et al.	救命救急科	Successful Cardiac, Lung, and Kidney Transplantation from a Methanol-poisoned Donor.	JMA J. 2024 Jan;7(1):133–135.	Case report
161	Obara T, Naito H, Nojima T, et al.	救命救急科	Hydrogen in Transplantation: Potential Applications and Therapeutic Implications.	Biomedicines.2024 Jan;12(1):118.	Original Article
162	Naito H, Hongo T, Yumoto T, et al.	救命救急科	Reply to: Stomach inflation during cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients: Where did the air go?	Resuscitation. 2024 Jan;194:110099.	Others
163	Kosaki Y, Hongo T, Hayakawa M, et al.	救命救急科	Association of initial lactate levels and red blood cell transfusion strategy with outcomes after severe trauma: a post hoc analysis of the RESTRIC trial.	World J Emerg Surg. 2024 Jan 2;19(1):1.	Original Article
164	Shinoda-Ito Y, Hirai A, Omori K, et al.	歯科(歯周科部門)	Ligneous periodontitis exacerbated by Behçet’s disease in a patient with plasminogen deficiency and a stop-gained variant PLG c.1468C>T: a case report.	BMC Oral Health. 2023 Nov 8;23(1):843.	Case report
165	Shinoda-Ito Y, Omori K, Ito T, et al.	歯科(歯周科部門)	Novel Iron Chelators, Super-Polyphenols, Show Antimicrobial Effects against Cariogenic Streptococcus mutans.	Antibiotics (Basel). 2023 Oct24;12(11):1562.	Original Article
166	Takeuchi N, Sawada N, Ekuni D, et al.	歯科・予防歯科部門	Association between oral condition and subjective psychological well-being among older adults attending a university hospital dental clinic: A cross-sectional study.	PLoS One. 2023 Nov 28;18(11):e0295078.	Original Article
167	Sawada N, Takeuchi N, Ekuni D, et al.	歯科・予防歯科部門	Effect of oral health status and oral function on malnutrition in community-dwelling older adult dental patients: A two-year prospective cohort study.	Gerodontology. 2023 Oct 17.	Original Article

168	Amano K, Okuzaki D, Kitaoka Y, et al.	顎口腔再建外科	Pth1r in neural crest cells regulates nasal cartilage differentiation	J Dent Res. 2024 Mar;103(3):308-17	Original Article
169	Amano K, Kitaoka Y, Kato S, et al.	顎口腔再建外科	Pth1r signal in Gli1+ cells maintains postnatal cranial base synchondrosis	J Dent Res. 2023 Oct;102(11):1241-51.	Original Article
170	Nagata Y, Moritani N, Amano K, et al.	顎口腔再建外科	Mandibular Condylar Displacement and the Associated Factors Following Intraoral Vertical Ramus Osteotomy.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2023 Sep;35(5):390-6	Original Article
171	Arimura Y, Yamanishi T, Kurimoto T, et al.	顎口腔再建外科	A case of unilateral soft palate paralysis following minor head injury	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2023 Nov;36 (6): 550-3	Case report
172	Umemori K, Ono K, Eguchi T, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	EpEX, the soluble extracellular domain of EpCAM, resists cetuximab treatment of EGFR-high head and neck squamous cell carcinoma.	Oral Oncol . 2023 Jul;142:106433.	Original Article
173	Obata K, Kitagawa N, Ono K, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	Mylohyoid Muscle: Current Understanding for Clinical Management- Part I: Anatomy and Embryology	J Craniofac Surg. 2024 Jan-Feb;35(1):251-255.	Others
174	Obata K, Kitagawa N, Ono K, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	Mylohyoid Muscle: Current Understanding for Clinical Management Part II: Clinical Anatomy, Radiology, and Surgical/Clinical Relevance	J Craniofac Surg. 2024 Jan-Feb;35(1):256-260.	Others
175	Ogawa T, Ono K, Ryumon S, et al.	口腔外科(口腔顎顔面外科部門)	Novel mechanism of cisplatin resistance in head and neck squamous cell carcinoma involving extracellular vesicles and a copper transporter system	Head Neck. 2024 Mar;46(3):636-650.	Original Article
176	Hashimoto M, Takahashi H, Tabata-Okubo K, et al.	矯正歯科	Bundling of collagen fibrils influences osteocyte network formation during bone modeling.	Scientific Reports. 2023 Dec;13:22028	Original Article
177	Takahashi T, Tomonobu N, Kinoshita R. et al.	薬剤部	Lysyl oxidase-like 4 promotes the invasiveness of triple-negative breast cancer cells by orchestrating the invasive machinery formed by annexin A2 and S100A11 on the cell surface.	Front Oncol. 2024 Mar 26;14:1371342.	Original Article
178	Hamano H, Zamami Y, Ushio S, et al.	薬剤部	Development of Preventive Methods for Drug-induced Cardiotoxicity Using a Large-scale Medical Information Database	Yakugaku Zasshi. 2024 Mar;144(3):257-264.	Others
179	Higashionna T, Harada K, Maruo A, et al.	薬剤部	Trends in Head and Neck Cancer Mortality from 1999 to 2019 in Japan: An Observational Analysis.	Cancers (Basel). 2023 Jul 26;15(15):3786.	Original Article

計179件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	⑦・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	⑦・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の基本的責務、研究計画書の作成に関する手続き等、倫理委員会の活動、インフォームド・コンセントを受ける手続き等、個人情報保護法の安全管理、重篤な有害事象への対応、試料・情報の保管管理、モニタリング及び監査の実績、研究者等の教育研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回（臨床研究審査専門委員会） 年13回（臨床研究審査委員会）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	⑦・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	⑦・無
・ 規定の主な内容 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年24回
・ 研修の主な内容 ・ 医師、歯科医師等の特定臨床研究を行う者に対する研修会（11回） ・ 特定臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（10回） ・ 認定臨床研究審査委員会の委員に対する研修会（3回）	

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を地域連携研修登録医等として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	473 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	32 年	内科
大塚 基之	消化器内科	科長	26 年	
前田 嘉信	血液・腫瘍内科 呼吸器・アレルギー内科	科長	31 年	内科
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	32 年	内科
湯浅 慎介	循環器内科	科長	25 年	
石浦 浩之	脳神経内科	科長	22 年	
藤原 俊義	消化管外科 肝・胆・膵外科	科長	39 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	30 年	外科
枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	科長	25 年	外科
荒木 元朗	泌尿器科	科長	26 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	33 年	
谷本 光隆	小児外科	科長	19 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	37 年	
松本 洋	形成外科	副科長	22 年	科長代理
森実 真	皮膚科	科長	24 年	
森實 祐基	眼科	科長	26 年	
安藤 瑞生	耳鼻咽喉科	科長	24 年	
高木 学	精神科神経科	科長	29 年	精神科
田中 將太	脳神経外科	科長	23 年	
森松 博史	麻酔科蘇生科	科長	30 年	麻酔科
塚原 宏一	小児科 小児血液・腫瘍科	科長	38 年	

武内 俊樹	小児神経科	科長	22	年	
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	33	年	麻酔科
増山 寿	産科婦人科	科長	37	年	産婦人科
平木 隆夫	放射線科	科長	28	年	
中尾 篤典	救命救急科	科長	31	年	救急科
柳井 広之	病理診断科	科長	28	年	
平沢 晃	臨床遺伝子診療科	科長	29	年	産婦人科
山本 直史	歯科総合歯科部門	部門長	29	年	歯科
鈴木 茂樹	歯科保存歯科部門	部門長	22	年	歯科
高柴 正悟	歯科歯周科部門	部門長	36	年	歯科
窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	科長・部門長	38	年	歯科
秋山 謙太郎	歯科補綴歯科部門	部門長	23	年	歯科
江國 大輔	歯科予防歯科部門	部門長	26	年	歯科
河津 俊幸	歯科歯科放射線科部門	副部門長	29	年	歯科 部門長代理
宮脇 卓也	歯科歯科麻酔科部門	部門長	36	年	歯科
飯田 征二	口腔外科顎口腔再建外科部門	科長・部門長	38	年	歯科口腔外科
伊原木 聡一郎	口腔外科口腔顎顔面外科部門	部門長	21	年	歯科口腔外科
上岡 寛	矯正歯科	科長	35	年	
仲野 道代	小児歯科	科長	31	年	
濱田 全紀	総合リハビリテーション部	副部長	32	年	リハビリテーション科
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	副部長	25	年	歯科
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	36	年	歯科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に 参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域 等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 前田 嘉信
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫、放射線部長 平木 隆夫、医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一、薬剤部長 座間味 義人、看護部長 岩谷 美貴子、総務課長 石尾 裕則、企画・広報課長 石田 達彦、医事課長 藤井 慎一、各診療科長・中央診療施設長

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子カルテで運用しているため、病歴資料についてはコンピュータによる集中管理を行っている。平成29年6月1日から文書管理システムを導入し、スキャナに取り込みされた紙文書については電子証明・タイムスタンプが付与され、電子カルテ上で原本として管理している。診療録の病院外への持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	岡山大学病院総務課
		高度の医療の提供の実績	岡山大学病院医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	岡山大学病院総務課
		高度の医療の研修の実績	岡山大学病院総務課
		閲覧実績	岡山大学病院企画・広報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	岡山大学病院医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	岡山大学病院医事課、岡山大学病院薬剤部
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	岡山大学病院医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	岡山大学病院感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	岡山大学病院医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	岡山大学病院感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室、岡山大学病院医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	岡山大学病院企画・広報課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	岡山大学病院医事課
		医療安全管理部門の設置状況	岡山大学病院医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		監査委員会の設置状況	岡山大学法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	岡山大学病院医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	岡山大学法人監査室
		職員研修の実施状況	岡山大学病院総務課、岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	岡山大学病院総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 前田 嘉信
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 石田 達彦
閲覧の求めに応じる場所	管理棟3階
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療安全管理部 ・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・ 内部通報窓口の設置 ・ 外部監査の実施 ・ 特定機能病院間におけるピアレビュー ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 次の各事項を審議する。 ・ 病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること（省令第一条十二イについて実施） ・ 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること（省令第一条十二ロについて実施） ・ 定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること（省令第一条十二ハについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること（省令第一条十二イについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること（省令第一条十二イについて実施） ・ 『入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況』及び『入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況』が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること（省令第一条十二ロ、ハについて実施） ・ その他医療安全管理に関すること（省令第一条十二イ、ロ、ハについて実施）	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の内容（すべて）： 第1回 「看護師の特定行為について」「医療機器取り扱いについて」「麻薬の取り扱いについて」 第2回 「情報セキュリティ研修」「インフォームド・コンセント」「検査・処置時の安全な鎮静・鎮痛について」 第3回 「心肺蘇生法」	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ・ マニュアルの整備
- ・ インシデントレポートシステム
- ・ ペイシェントセーフティマネジャーの配置
- ・ 医療安全管理委員会の設置
- ・ 医療事故等調査委員会
- ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 7 3 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染予防対策委員会 1回／月 合計12回 ・ ペイシェントセーフティマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回／月 合計12回 ・ 感染制御部職員会議 1回／月 合計12回 以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。 ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 ・ 看護部感染対策リンクナース会 1回／月 合計12回 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 感染防止の視点からの看護手順の作成 環境整備の状況把握と指導 ・ 新型コロナウイルス対策会議 隔週開催 合計25回 COVID-ICTチーム、COVID-ERT（重症集中）チーム、COVID-BCT（ベッドコントロール）チーム 新型コロナワクチンWG、COVID-ICTコア会議、陽性者対応臨時会議	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 全職員対象院内感染対策講習会 2回／年（②は医療安全研修会と合同開催） ① 針刺し事故防止について、アンチバイオグラムと薬剤耐性菌の検出状況、感染対策アフターコロナとこれから ② 海外型薬剤耐性菌、薬剤耐性（AMR）について 2) 新規採用者研修 1回 3) 看護補助者に対する研修会 1回 標準予防策 講義 4) 臨床実習前の学生への講義 2回	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ 感染予防対策委員会、ペイシェントセーフティマネジャー会議、看護部感染対策リンクナース会、看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。
 - ・ 感染制御部NEWSを月1回のペースで配信し、流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また、随時、所属長宛にその都度メール配信して注意喚起や情報提供を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 令和5年4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について（薬剤部）－ 令和5年5月 麻薬の適切な管理について 令和5年9月 薬剤耐性（AMR）について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入・管理 ・ 病棟・各部門への医薬品の供給 ・ 患者への医薬品の使用 ・ 病棟等における医薬品の管理 ・ 医薬品情報の収集・管理・周知 ・ 他施設との連携 ・ 放射性医薬品の管理 ・ 院内製剤の運用 ・ 重大な有害事象の予防および対応（事故発生時の対応、教育・研修） ・ 医薬品関連の情報システムの利用	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 医薬品に係る情報収集は、主に薬品情報室は担い、得られた情報を薬品情報室で評価し、周知が必要な情報については、院内情報誌（DI-News）に掲載し、PSM会議および医療安全管理委員会を通じて各診療科ならびに中央診療部門等に情報提供している。 また、医薬品による有害反応の未然回避および重篤化回避した情報として「プレアボイド報告」を収集し、とくに医薬品の安全使用に重要な事例は「警鐘事例」としてPSM会議および医療安全管理委員会で報告している。 薬剤部内で発生したインシデント事例については、薬剤部内のリスクを検討する会議を設け、事例検討を行い、対応策の検討と部員への周知を行っている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬品マスタを活用した医薬品の安全管理 ・ 牛乳・卵・大豆アレルギーがある患者への牛乳・卵・大豆由来の薬剤の誤投与防止を目的に「薬剤アレルギーマスタ」を新設し、電子カルテへ実装。運用を開始した。 ・ 用法汎用マスタの更新を行い、処方オーダー時の用法選択エラー対策を講じた。 ・ 医薬品のインシデントの報告があった薬剤に対して薬剤マスタに「専用コメント」を付与し、調剤時のエラー対策を講じた。 2) 薬剤師による処方作成支援業務のプロトコルの拡大 医薬品の適正使用および安全管理向上の観点から、薬剤師による処方作成支援業務のプロトコル項目を拡大し、運用を開始した。	

3) 抗がん剤混合調製システムの稼働

抗がん剤混合調製時の薬品間違い、採取量間違いを防止するため、抗がん剤調製を支援するシステムを稼働させ、安全な抗がん剤調製作業を実施する運用を開始した。

4) 抗がん剤レジメンの見直し

抗がん剤オーダーエラー防止を目的に登録されているレジメンを見直し、整理を行った。

5) 薬剤部イントラネット上の情報更新

電子カルテの薬剤部ページに掲載されている医薬品関連情報の内容を見直し、更新した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 106 回
・ 研修の主な内容： ・ 定期研修 1. MRI装置の安全性：装置の安全性と入室時の注意事項について 2. 放射線治療装置の安全管理：装置の使用方法和注意事項について 3. 放射線治療装置の災害対応訓練：緊急時の対応訓練 4. RALS緊急時マニュアル：緊急時の対応訓練 5. マイクロセレクトロンHDR-V3の安全性：装置の使用方法和注意事項について 6. 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講（学会主催のもの） 7. 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について 8. 血液浄化装置：同上 9. 除細動装置：同上 10. 閉鎖式保育器：同上 11. 注入ポンプ(PCAポンプ)：同上 ・ 新しい医療機器導入時の研修 1. 循環器用X線透視診断装置 Alphenix INFX-8000V/HX 2. 全身用X線CT診断装置 Aquilion Serve SP 3. 高エネルギー放射線発生装置 TrueBeam 4. 全身用X線CT診断装置 SOMATOM go.Open Pro 5. 超電導磁石式全身用MR装置 MAGNETOM Free.Max 6. 超電導磁石式全身用MR装置 MAGNETOM Vida 7. 位置決め用X線装置 エグザクトラック 8. 位置決め用X線装置 kVイメージングシステム 9. 超電導磁石式全身用MR装置 MAGNETOM Vida Fit 10. 輸液ポンプ 11. シリンジポンプ 12. 補助循環装置 13. 超音波診断装置 EPIQ CVx(株式会社フィリップス・ジャパン)操作説明	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 1. X線装置：定期点検（機種により年1～4回）、使用前点検 2. 診療用高エネルギー放射線発生装置：定期点検（年4回）、使用前点検 3. 診療用放射線照射装置：定期点検（年1回）、使用前点検 4. 人工心肺装置：定期点検（年1回）、日常点検（始業点検/終業点検） 5. 人工呼吸器：定期点検（年2回）、使用前点検 6. 血液浄化装置：定期点検（年2回）、使用前点検、透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定、細菌培養（毎月） 7. 除細動装置：定期点検（年2回） 8. 閉鎖式保育器：定期点検（年1回） 9. 臨床検査機器装置：定期点検（機種により1～3回/年）、日常点検（始業時、終了時点検） 10. 会議（1回/月）にて当月の保守点検実施予定機器の報告 11. 超音波診断装置：定期点検（年1回）、日常点検（始業時・終業時点検）	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無)

1. 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集
2. 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集
3. メーカー、業者からの情報提供

・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 病棟生体情報モニターアンテナ受信状況改善のための改修工事
2. 病棟PCAポンプ三方活栓開け忘れ事例への対応
3. テルモ社製シリンジポンプ使用時の他社製シリンジ使用事例への対応

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内における医薬品の使用状況・副作用情報・プリアボイド等の情報収集、整理・周知は薬品情報室が運用する体制としている。 薬品情報室では、収集した医薬品情報の中でとくに周知が必要な情報を院内情報誌（DI-News）へ掲載し、PSM 会議を通じて診療科および診療部門へ情報提供を行っている。また、緊急安全性情報（イエローレター）や安全性速報（ブルーレター）等の特に緊急性が高い情報については、薬剤部門システムより当該医薬品の使用経験がある医師を抽出し、当該医師に対して個別的に情報提供を行っている。また、院内で発生した有害反応の未然回避および重篤化回避した事例を一元的に管理し、医療安全上、多職種での共有が必要と考える事例については、「警鐘事例」として PSM 会議および医療安全管理委員会で報告している。造影剤に関する有害反応の情報は、診療情報管理室から定期的に情報提供を受け、医薬品安全管理責任者へ報告し、薬剤部で一元的に管理している。 医薬品に関する情報提供の手段としては、院内メール、PSM 会議、医療安全管理委員会とし、PSM 会議での確認テストをもって周知状況の確認を行っている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等医薬品の使用情報は、未承認新規医薬品・医療機器安全管理部門、薬事委員会、薬剤部門システムからのデータ抽出、さらには薬剤師の薬剤業務より情報収集する体制としている。临床上、薬剤師が未承認等医薬品の使用を確認した際は、処方医に対して、処方の必要性、処方の妥当性、さらにはリスク対策についての確認を行っている。得られた情報は薬剤部内で一元管理し、定期的に医療安全管理責任者へ報告している。未承認等医薬品の取扱いに関する教育資料を作成し、薬剤部員に周知している。	

・担当者の指名の有無 (有・無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部、職種 副薬剤部長) (所属：薬剤部、職種 薬品情報管理室主任) (所属：、職種) (所属：、職種) (所属：、職種) (所属：、職種) (所属：、職種) (所属：、職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有・無)
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長（診療（医科）担当）をもって充てる。 定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有・無)
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 2020年度より、（岡山大学病院における診療記録の多職種による監査の運用に関する申合せ）の規定に基づいて、診療記録管理委員会で承認された、多職種監査チームによる監査を実施している。診療情報管理室では退院1週間後を目途に退院患者全体に対して量的監査（入院診療計画書、手術記録、退院時要約など）を実施している。加えて、質的監査も多職種監査とは別に、監査項目数を増やして実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。また、IC項目についてはIC委員会へ報告を行っている。 主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（４）名、専任（３）名、兼任（２７）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（１４）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（２）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。 ・ 事故、入院患者の死亡及びレベル３ｂ以上のインシデント等病院長が認める事象が発生した場合における診療録の確認、患者又は家族への説明、当該事象の発生の原因究明と対応状況確認及びそれに基づく必要な指導に関すること。 ・ 医療に係る安全管理に関する連絡調整に関すること。 ・ 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。 ・ 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。 ・ 医療事故調査等支援団体に関すること。 ・ その他医療事故の防止・医療の安全性の向上に関すること。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（１件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・ 活動の主な内容： ・ 評価委員会の設置（医療安全管理部門の医師等を構成員に含む） ・ 業務（提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など） ・ 構成員（手術を行う部門（外科系）に所属する職員含む） ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（36件）、及び許可件数（36件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・評価委員会の設置（医療安全管理部門の薬剤師を構成員に含む）
 - ・業務（使用の条件及び使用の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、使用症例の事後検証など）
 - ・構成員（医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を含む）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年384件（R05.04～R06.03）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年104件（R05.04～R06.03）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b以上の把握等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：大分大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：福島県立医科大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況
2023年11月に大分大学を訪問し、インシデント報告件数の増加、ポケットマニュアルの内容充実の必要性などを助言した。
2023年11月に福島県立医科大学の訪問を受け、リモートでのインフォームド・コンセントについて、病院としてのルールを定める必要があるなどの助言を受けた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- ・患者相談窓口を総合患者支援センターに設置
- ・窓口の活動に関する患者等への明示として、患者相談窓口の活動趣旨、患者相談窓口の設置場所、患者相談窓口の担当者、責任者、患者相談窓口の対応時間を総合患者支援センター、医事課、病棟ほかに明示
- ・窓口の活動に関する規約を整備
- ・相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮として、患者やその家族のプライバシーを尊重するため、専用の相談室（４部屋）を設置
- ・窓口以外の苦情相談の受付方法は電話相談・投書箱（１４か所）・インターネット（電子メール）を用意
- ・苦情、相談の処理方法として、記録の整備・管理の適正化、各部署との連携・管理者への報告・安全対策等の見直しへの活用等を実施
- ・苦情、相談内容の共有として、毎週１回の相談担当者によるカンファレンス、月に１回の相談担当者と各部門担当者との会議を介しての情報共有

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

２０２３年度は、２０２３年４月１日より新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について」等について研修を実施した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の１０月１日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

２０２３年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）を下記の日程で受講した。

管理者（前田 嘉信）：２０２３年１２月１５日

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者（塚原 宏一）：２０２３年１１月２０日

医薬品安全管理責任者（座間味 義人）：２０２４年２月６日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

２０１９年度に、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、主に以下２点の整備が当院に必要との指摘があった。

①急変前兆候を捉えて対応する仕組み

②侵襲的処置において確実・安全に鎮静剤・鎮痛剤を使用するための体制

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

指摘に対し、院内にWGや委員会を立ち上げ、体制確保に向けた準備を行い、現時点で以下までの措置を講じた。

①当院でのラピッドレスポンスシステム（RRS）の稼働を決定し、２０２１年１０月より本格的に運用を開始、２０２４年６月からは２４時間体制とした。個別の症例についての検討やフィードバックも確実に行之、活動内容はRRTレターにまとめ、毎月のPSM会議で院内に向け、共有を図っている。

②鎮静剤・鎮痛剤について麻酔医の管理外での使用を安全が担保されるまで全面禁止した。使用開始に向けて、医療者教育と並行し、鎮静剤・鎮痛剤を使用する検査や処置を行う医療者対象の院内認定制度を創設し、２０２１年９月から制度を稼働した。院内認定制度は順調に運用し、改善審査が行われた時点では１，０００名以上の看護師、７０名以上の医師を認定した。また、「現在使用している鎮静・鎮痛剤使用時の基準」「消化器内視鏡検査・処置時の鎮静管理マニュアル」を整備し、鎮静・鎮痛の適応の決定から帰宅・帰室まで安全に管理・運用する手順を明記した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 ○人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること ○リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること ○医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 ○大学ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			☒ 有・無
・合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じ、次の事項を審議している。 ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議の資料を院内HP（学内限定）に掲載している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☒無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☒無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
前田 嘉信	○	医師	病院長、診療科長、教授、センター長
森実 真		医師	副病院長、診療科長、教授、センター長
増山 寿		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長
窪木 拓男		歯科医師	副病院長、診療科長、部門長、教授、部長、室長
伊野 英男		医師	副病院長、教授
和田 淳		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、センター長
上岡 寛		歯科医師	副病院長、診療科長、教授
塚原 宏一		医師	副病院長、診療科長、教授、部長、室長、
岩谷 美貴子		看護師	副病院長、看護部長
大塚 文男		医師	診療科長、教授、部長、センター長
大塚 基之		医師	診療科長、教授、部長
富樫 庸介		医師	診療科長、教授
湯浅 慎介		医師	診療科長、教授

石浦 浩之		医師	診療科長、教授
藤原 俊義		医師	診療科長、教授、センター長
豊岡 伸一		医師	診療科長、教授、センター長、バンク長
枝園 忠彦		医師	診療科長、病院教授
荒木 元朗		医師	診療科長、教授、室長
笠原 真悟		医師	診療科長、教授、部長
谷本 光隆		医師	診療科長、病院講師
尾崎 敏文		医師	診療科長、教授、部長
森實 祐基		医師	診療科長、教授、センター長
安藤 瑞生		医師	診療科長、教授
高木 学		医師	診療科長、教授
田中 將太		医師	診療科長、教授
森松 博史		医師	診療科長、教授、部長、センター長
武内 俊樹		医師	診療科長、教授
岩崎 達雄		医師	診療科長、病院教授
平木 隆夫		医師	診療科長、教授、部長、室長、センター長
岡田 あゆみ		医師	診療科長、准教授
中尾 篤典		医師	診療科長、教授、センター長
柳井 広之		医師	診療科長、病院教授
田端 雅弘		医師	診療科長、病院教授、センター長
平沢 晃		医師	診療科長、教授
山本 直史		歯科医師	部門長、病院教授
鈴木 茂樹		歯科医師	部門長、教授
高柴 正悟		歯科医師	部門長、教授
秋山 謙太郎		歯科医師	部門長、教授
江國 大輔		歯科医師	部門長、教授
宮脇 卓也		歯科医師	部門長、教授
飯田 征二		歯科医師	診療科長、部門長、教授
伊原木 聡一郎		歯科医師	部門長、教授
仲野 道代		歯科医師	診療科長、教授
松川 昭博		医師	部長、教授

藤井 伸治		医師	部長、病院准教授
稲垣 兼一		医師	センター長、病院准教授
難波 祐三郎		医師	センター長、病院教授
平岡 佐規子		歯科医師	センター長、病院准教授
西田 圭一郎		医師	センター長、病院教授
中村 一文		医師	センター長、病院教授
江草 正彦		歯科医師	センター長、病院教授
柳 文修		歯科医師	室長、教授
郷原 英夫		医師	部長、病院教授
大月 審一		医師	病院教授
座間味 義人		薬剤師	病院教授、薬剤部長
王 英正		医師	病院教授
渡部 昌実		医師	病院教授
堀田 勝幸		医師	病院教授
櫻井 淳		医師	病院教授
本田 貢		診療放射線技師	医療技術部長
川村 篤		事務	事務部長
井上 貴裕		病院長補佐	経営戦略支援部長、客員教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
大学のホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
 病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
 病院長は、病院の管理運営に関することをつかさどり、所属職員を監督する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ次の業務を分担している。
 - （1）企画・総務運営担当 （2）診療（医科）担当（兼）防災担当
 - （3）診療・研究（歯科）担当 （4）教育（医科）担当 （5）研究（医科）担当
 - （6）教育（歯科）担当 （7）医療安全管理担当 （8）看護・患者サービス担当
 病院長補佐は、病院の経営分析及び経営改善に関し、提案及び助言を行い、病院長の職務を助けている。
 広報については、事務部に企画・広報課を置き、対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 病院長の職務を円滑に遂行させるため、副病院長を複数名置き、それぞれの病院の管理運営に関する業務を分担している。
 - 特定機能病院管理者研修に管理者、医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者が参加している。
 - 公開講座「おかやま病院経営『トラの穴』講座」を開講し、本院から副病院長が1名受講している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ ・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回（令和 6 年度第 1 回委員会を令和 6 年 6 月 20 日に実施，第 2 回委員会を令和 6 年 12 月 5 日に開催予定） ・ 活動の主な内容： ○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。 ○安全管理状況及び改善状況について審議する。 ○病院の業務状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認する。 ○審議の結果に基づき，学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。 ○審議の結果及び監査意見を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 公表の方法：ホームページに掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会 （会長）	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ ☒ 無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所（弁護士）		法律に関する識見を有するため	有・ ☒ 無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学（名誉教授）		医療を受ける者の代表者	有・ ☒ 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
国立大学法人岡山大学内部統制規則に基づき、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進並びに資産の保全を図るため、当該組織及び所掌する業務における内部統制の整備及び運用状況について、内部統制委員会に定期的に報告を行うこととしている。内部統制委員会では、定期的に報告される内部統制の整備及び運用状況に基づき、是正措置を講じた内容等について、必要に応じて当該措置の妥当性の検証を行っている。

- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 公表の方法
○内部統制委員会の検証結果を、各部局へ周知している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）の規定に基づき、経営協議会を設置して、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に、病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学経営戦略会議を設置し、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 年 8 回 大学経営戦略会議 年 4 4 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ ・ 無 ） （経営協議会 年 8 回 大学経営戦略会議 年 4 4 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規則、構成員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人岡山大学経営協議会 国立大学法人岡山大学大学経営戦略会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 ○ ホームページに掲載 ○ 医療安全ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 市民等を対象とした公開講座等の開催 病院HPにおいて、複数診療科による診療体制、診療データ等、最新の手術支援ロボットの紹介及びコロナ・アフターケア外来等の専門外来等について情報発信	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科等が連携するセンターを設置している。 複数の診療科で構成し、多職種が関わる中央診療施設を設置している。	